

令和4年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」

主な取組内容概要

自治体名：青森県八戸市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

八戸市には幼児教育・保育施設が104園設置されており、全てが私立である。幼児教育の捉え方も多様であり経営方針にはそれぞれの特色が見られる。

市教育委員会としては、各園の教育・保育内容に直接関与することが難しい状況にあるため、「特別支援教育の視点」を切り口とすることで、各園の困り感や悩みを掘り起こし、園での全体指導・個別支援の双方の面で改善を図っていくことが、幼児教育の質の向上つなげると考える。

こうしたことから、こども支援センターへ2名の幼児教育アドバイザー（元小学校校長、元幼稚園長）を配置し幼児相談員6名と共に小学校との連携やスムーズな就学に向け、特別支援教育の視点に基づいた園支援を実施している。

【令和4年度における主な取組内容】

- 1 幼児教育アドバイザーの配置・育成など、体制の充実
- 2 研修支援・巡回訪問、幼保小接続の推進など体制の活用
- 3 都道府県市町村の連携を含めた域内全体の質向上を図るための仕組み作り

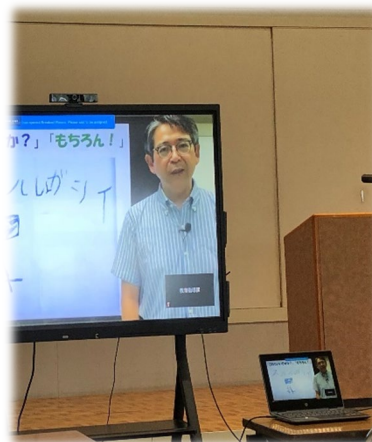
【取組内容の具体的な事例】

〈小学校接続を意識した巡回相談〉

・令和3年度は、特別な配慮を必要とする幼児への巡回相談を行いながら幼児教育アドバイザーの役割について周知を行うとともに、幼児教育等における園の現状を把握した。市内すべての園が私立ということもあり、園それぞれの歴史や文化があること、直接的に幼児教育に話を向けていくことには抵抗感が強いという課題がみられた。そのため、令和4年度は、巡回相談を行うなかで配慮を必要とする幼児への支援の助言を生かして保育教諭への環境づくりへのアドバイスを行ったり、幼保こ小への円滑な接続について理解を促したりしながら幼児教育の視点で話し合う時間を作ることに努めた。また、養成大学准教授が当センターの巡回相談に帯同することで、「小学校への接続についての望ましい助言の在り方」について幼児教育アドバイザーの研修を行った。年度後半には特別な配慮を要する幼児の相談だけではなく保育教諭への指導についての依頼があり、少しずつ幼児教育の視点での支援が増えてきている。

〈幼・保・こ・小接続の推進における合同研修会〉

- ・令和4年9月1日、国立特別支援教育総合研究所インクルーシブ教育システム推進センター上席総括研究員兼センター長 久保山茂樹氏を講師に迎え、オンラインでの合同研修会を開催した。
- ・参加者は幼稚園、保育所、認定こども園教職員、小学校教員併せて132名であった。全体会では「幼児の成長と小学校への円滑な接続～園でのかかわりを学び、小学校でも活用するために～」と題した講演を行った。分科会では、「10の姿を意識した活動と小学校で見られる学びの連続性の共有」をテーマにグループ協議を行った。
- ・事後アンケートから「幼保小の教職員が一緒に受講することで、幼保と小学校の違いや課題、子どもの育ち



や対応について知り、共通理解を深める機会となった」などの感想が多く聞かれた。

〈幼保小接続を意識した小集団活動〉

- ・相談業務の一環として年長児対象の小集団活動を年間13回実施した。活動プログラムには担任及び保護者支援も組み込み幼児教育アドバイザーによる講話を2回実施した。保護者から「小学校生活にイメージがもてた」、園の先生からは「ねらいに沿った活動で参加児が自信をもって取り組める丁寧な学びの場になっていると理解できた。年長はこうあるべきという考え方ではなく、園の活動を振り返る良い機会となった」という感想が聞かれた。



〈市研究員制度を活用した幼保こ小の連携についての研究〉

- ・市研究員制度を活用し、「幼保こ小連携」部会で接続期カリキュラムを含めた指導の在り方研究をスタートさせた。令和5年度は、幼児教育アドバイザーとともに研究成果の周知を図り、円滑な「架け橋プログラム」に向けた取り組みを推奨していく。

〈研修支援について〉

- ・小中学校教員対象の研修講座8講座を市内幼児教育・保育施設の教職員にも対象を広げて開催した。令和4年度は25名の参加があった。今後も研修を通じた交流が図られるよう周知していく。
- ・幼児教育アドバイザーが園内研修に参加し、ICTを活用した保育の振り返りと「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に即した子どもの育ちの見つめ直しに関して助言を行った。子どもの姿を多様な視点から見直すことは、保育教諭の質向上につながる要素となると思われる。
- ・園の研修支援として、幼児教育アドバイザーが公開保育においてパネリストを務めた。幼児教育について幼児の活動を価値付けながら小学校への学びにつながる話合いとなった。園と小学校をつなげる架け橋的な役割となり、効果的であった。



〈幼児教育アドバイザー活用における周知〉

- ・令和2年からこども支援センターは保健、福祉の部署と連携しながらネウボラの役割を担い、乳幼児期からの切れ目のない支援を行っている。令和4年度も令和5年1月11日に幼児教育・保育施設へ幼児に関する相談窓口の他、幼児教育アドバイザーの活用について改めて周知を図るためオンラインによる事業説明会を開催した。
- ・62施設の参加があり、アンケートでは、園内研修等で幼児教育アドバイザーを活用したいという意見が増えているため、活用しやすい体制を整えていく予定である。

令和4年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」

主な取組内容概要

自治体名：宮城県気仙沼市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

市内には幼児教育施設が30施設（公立・私立幼稚園9園、保育所型認定こども園1園、認可保育所他20施設）あり、全ての幼稚園で預かり保育をしている。本市では、平成28年から幼児教育推進室を設置している。令和4年度はコーディネーター2名（元所属長）とアドバイザー2名（元所属長及び元職員）を配置し、幼児教育推進に向けた企画運営を行うなど、幼児教育施設の管理部署と連携しながら事業を行っている。

【令和4年度における主な取組内容】

- ・ 幼児教育推進連絡会及び保幼小連携・接続研修会の開催（年2回）
- ・ 人材育成指標に基づく研修の実施（初任者層1回、中堅層1回）※それぞれ1回中止
- ・ 幼児教育アドバイザー等による幼児教育施設訪問（原則各施設1回以上）
- ・ 幼児教育推進室だよりの発行（年3回）

【取組内容の具体的な事例】

＜保幼小連携・接続研修会（年2回開催）の様子＞

○内 容：保幼小連携・接続に係る講話、接続期カリキュラム活用事例紹介
小学校区ごとの情報交換

○参加者：市内全幼児教育施設及び全小学校の担当者

○令和4年度は参集型で研修会を開催し、宮城教育大学の教授及び准教授から「幼児期の遊びを通した学びと小学校への円滑な接続」及び「小学校生活科につなぐ幼保接続カリキュラム」というテーマで講話をいただいた。また、実践事例紹介や小学校区ごとの情報交換も行い、更なる連携・接続について確認し合うことができた。



＜人材育成指標に基づく研修（初任者層1回、中堅層以上1回）の様子＞

○内 容：保育参観（年少児、年中児、年長児）

話し合い（保育参観の振り返り、日常の保育を振り返り、その他）

○参加者：初任者層職員 計9名 中堅層以上 計18名

○市内にある全幼児教育施設における初任者層（1～3年目）及び中堅層以上（4年目以上）の希望者を対象に研修会を実施した。前半に保育を参観し、後半はグループに分かれて話し合いを行った。キャリアステージごとの保育の悩み等について共有する場となり、意欲の向上につながった。

＜幼児教育推進室だよりの作成＞

○内 容：各種研修会の概要及び研修会参加者の声、施設訪問の様子など

○配布先：市内全幼児教育施設、小学校、管内教育事務所

○各施設及び小学校で回覧をしてもらうことで、研修会や施設訪問等の概要を研修会参加者以外の職員も知ることができるなど、情報共有に役立った。



令和4年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名：福島県須賀川市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

本市はこれまで幼保一体化の重要性を踏まえ、平成22年4月に健康福祉部内に「こども課」を設置し、幼保に関する事務に関して担当部局の一元化を行ってきた。また、幼保小推進のため平成28年4月に「こども課」を学校担当部局のある教育委員会内に編入し、学校担当部局が設置した教育研修センターと連携しながら保育士・幼稚園教諭等の研修や幼保小連携に向けた体制を整えてきたところである。

【令和4年度における主な取組内容】

- ・ 幼児教育アドバイザーの人選
- ・ 公私立を交えた各種研修会の開催
- ・ 職員及び保護者へ実施したアンケートの集計並びに分析

【取組内容の具体的な事例】

<幼児教育アドバイザーの人選>

園長等経験者など豊富な知識を有する人材から、幼児教育アドバイザーの人選並びに決定を行った。本市では人選した幼児教育アドバイザーを令和5年度から配置し、各施設訪問等による支援を行う計画であり、幼児教育の質向上の取組みをさらに強化していく予定である。

<幼児教育の質の向上を目指すための幼児教育セミナーの様子>

講師：大学院大学教授

参加者：保育士・幼稚園教諭等 46名

大学院大学教授を講師として招き、幼児教育の質の向上のため、「架け橋プログラム」に基づきセミナーを開催した。幼児教育の本質的な内容及び幼保小連携のあり方について、改めて知ることができる機会となった。



<アレルギー対応研修会の様子>

講師：須賀川市消防署職員

参加者：保育士・幼稚園教諭等 27名

アレルギーを引き起こす原因及び症状等の基本内容に加え、アナフィラキシーショックが発生した際の対応方法や、エピペンの使用方法の演習を実施した。参



加者が実際に経験することによって、さらに理解を深められ、万が一というときに的確に対応できる術を身に付ける機会となった。

<特別支援教育研修会の様子>

講師：須賀川市研修センター職員

参加者：保育士・幼稚園教諭等 14名

特別な支援が必要な子どもに関して、子どもとその保護者への関わり方、支援を行う上での各施設の留意点等について研修会を実施した。公私立職員を交えた研修会であったため、互いの園での支援方法等の意見交換を行い、今後の支援のあり方についてさらに理解を深めることができる機会となった。



<職員・保護者アンケートの集計・分析>

令和3年度に実施した、市内の施設に勤務する職員及び市内未就学時前の保護者へのアンケートについて、集計・分析を行ったアンケート結果を作成した。それぞれの設問項目において現状や意見等を把握することにより、今後の研修の実施等や、本市の幼児教育推進のための工夫改善に向けた基盤となる貴重な資料となった。

職員アンケート内容（一部）

- ・研修に参加するうえで課題だと思うこと
- ・今後参加したい研修や実施してほしい研修
- ・施設への幼児教育アドバイザーの派遣に関して

保護者アンケート内容（一部）

- ・幼児教育・保育に関して必要だと思うこと
- ・子育てするうえでの悩みや困りごと

令和4年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名：茨城県鹿嶋市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

- ・ 幼児教育にこれまで携わり、知識や経験豊富な人材を「幼児教育アドバイザー」として配置している。
- ・ 公私立問わず、幼稚園教諭や保育士等への相談支援、指導助言の専門家として、現場で抱えている課題解決に向けてサポートする役割を担っている。
- ・ 市独自にアプローチ・スタートカリキュラムを作成し、幼稚園・保育所・認定こども園と小学校が連携を深めていくことを推進している。

【令和4年度における主な取組内容】

- ・ 市内幼児教育施設への訪問
- ・ 園長会・学校長会等での事業説明と研修
- ・ 保幼小接続の検討
- ・ 各種研修会の開催・参加
- ・ 教育相談

【取組内容の具体的な事例】

＜幼保の連携＞

毎月公立幼稚園・保育園・認定こども園合同の園長会等に出席。現場の職員だけでなく、幼児教育アドバイザーや教育委員会行政職員も参加することで互いの実情を把握し、定期的な相談・支援等の場が確保された。



＜公立保幼教職員研修・公立保幼初任者研修＞

外部講師を招き、「幼児教育指導法」などをテーマに職員研修を実施。また、初任者には幼児教育アドバイザー等が講師となり内部での研修を実施。外部研修に参加することができない職員も現場経験が豊富な職員から指導や支援を受けることができ、職員間で公平にスキルアップを図ることができた。



＜幼保小接続の検討＞

アプローチスタートカリキュラム検討委員会を実施し、幼保小接続などに関する意見交換会を実施する。教育内容の接続や学びの連続性などの理解を深めるため、事例を検討、意見交換を行い、幼児教育施設職員と学校職員で共通理解、情報共有を図ることができた。



令和4年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名：埼玉県さいたま市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

さいたま市内には幼稚園・保育所等の施設が730以上ある（そのうち公立の保育所61園）。私立園が9割以上を占め、その規模や形態も多様である。幼児教育・保育研究センターでは、幼児教育・保育の質向上のため、「さいたま市幼児教育の指針」を策定するとともに、研修会の開催や依頼に基づく施設への幼児教育アドバイザーの派遣等を実施している。本年度は、幼児教育アドバイザーの派遣を小学校にも拡大し、幼保小の円滑な接続も強化している。

【令和4年度における主な取組内容】

- ・保育者の資質向上のための研修等の実施（公開保育研修会、保育者資質向上研修会、実践事例集作成と発行等）
- ・私立幼稚園等特別支援巡回相談や幼児教育アドバイザー派遣事業の実施
- ・幼保小の円滑な接続の強化（教育委員会との連携、小学校等体験研修、小学校へのアドバイザー派遣）
- ・内定者等学生支援事業「わくわく幼児教育スタート・ミーティング」の実施

【取組内容の具体的な事例】

＜公開保育研修会の様子＞

幼児教育アドバイザーを公開保育研修会の講師として公開園に派遣するとともに、他園の保育者や小学校教諭等も交えて実施した。当日は、参観だけでなく、他園からの参観者との意見交換、園の職員による協議を行った。



【園内協議の様子】

他園からの参観者の意見や園職員同士の協議を行ったことで園のよさや課題を共有し、保育の質の向上につなげることができた。当日の様子を撮影した写真や動画をスクリーンに映しながら協議を行った園もあり、具体的な場면을保育者同士で共有しながら深まりのある協議を行うこともできた。また、公開園の取組や講師による助言等を「公開保育研修会実施報告書」として冊子にまとめ、市内の幼稚園・保育所等に配付することで保育者の資質向上に役立てることができるようにした。

＜保育者資質向上研修会「ミドルリーダーの役割」の様子＞

本市で作成している「さいたま市幼児教育・保育人材育成ガイドライン」のキャリアステージをもとに、「ミドルリーダーの役割」（講師は大学教授）を新規講座として実施した。当日は、幼稚園・保育所等から副園長を中心に多くの研修者が集まった。参加し

た方からは、「他園の様子や取組を知ることができたのがよかった。」「副園長として悩みなどを共有できる機会がなかったので、この研修会で同じ立場の方と話すことができ、心が軽くなった。」などの感想が寄せられた。



【保育者資質向上研修会の様子】

＜「さいたま市幼児教育・保育実践事例集（第2集）」の作成・発行＞



令和3年度、本市の幼児教育コーディネーターを中心にまとめた第1集に続いて、第2集を作成し、市内の幼稚園・保育所等に配付した。令和4年度は実践事例集作成協力園を募り、園の職員に実践事例を執筆してもらいながら、それをさいたま市幼児教育・保育研究センターが取りまとめる形で作成した。作成にあたっては、学識経験者、幼稚園・保育所等の作成協力園の代表者、幼児教育コーディネーターからなる「さいたま市幼児教育・保育実践事例集作成部会」を設け、園種を超えて情報交換等も行った。

＜小学校への幼児教育アドバイザー派遣の様子＞

令和4年度は、幼児教育・保育推進員に登録している学識経験者の方の中から、小学校教諭として勤務経験がある方に「幼保小接続担当アドバイザー」としての役割を担ってもらい、小学校等へもアドバイザーを派遣できるよう事業の拡充を行った。そのため、市内の小学校から、「スタートカリキュラムの見直しをするにあたって、助言等をしてもらいたい。」という依頼があり、近隣の幼稚園、保育園の保育者も交えたアドバイザー派遣事業を実施した。当日は、幼稚園、保育園のアプローチカリキュラムを持ち寄ってもらい、具体的に情報交換を行いながら連携を強化することができた。

＜内定者等学生支援事業「わくわく幼児教育スタート・ミーティング」の様子＞

本市は私立幼稚園・保育所等がほとんどであり、新規採用者は1名という園が多くある。そこで、保育者として勤務する前に、不安な気持ちを軽減させることと、園を超えた横のつながりをもつ機会とすることをねらいとして、「わくわく幼児教育スタート・ミーティング」を開催した。先輩保育者3名が会に参加し、内定者からの質問に答えるような形式で行った。参加した内定者からは、「どのような



【ミーティングの様子】

準備をしておけばよいか参考になった。」「先輩保育者の方の経験談を聞くことで、不安な気持ちを少し減らすことができた。」「働く園は違っても、同期と思える仲間がいることが分かり安心した」といった感想が寄せられた。

令和4年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名：埼玉県草加市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

草加市においては、幼稚園・保育所・認定こども園・小学校・中学校が連携しながら、生きる力を一貫して育てる「幼保小中を一貫した教育」を行っている。これまでの取組により、子どもたちの生きる力が着実に育まれ、幼保小の円滑な接続も実現されてきている。課題として、公立園に比べ私立園に対する支援が十分に実施できていないことがあるため、市内の全ての園に十分な支援が実施できるよう、取り組む必要がある。

【令和4年度における主な取組内容】

- ・ 幼児教育アドバイザーによる訪問支援
- ・ 架け橋期のカリキュラムの編成と実施についての研修会の開催
- ・ 保育見学会の開催
- ・ 子ども教育連絡協議会の開催
- ・ アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの編成支援

【取組内容の具体的な事例】

<訪問支援>

市内でのべ95園に訪問した。訪問にあたっては、検温、消毒、マスクの着用等の対策を行った。園内での保育の様子を見学したのち、園長や担任の方を交えて懇談会を実施している。懇談中は、保育の振り返りや保育教育についての情報提供のほか、訪問園からの相談を受け付けた。

訪問支援後のアンケートでは、「園の職員全体の学びにつながった」「自身の保育を肯定してくれて自信がついた」「保育の視野が広がった」等の肯定的な意見を伺うことができた。

<保育見学会>

市内の幼稚園・認可保育園・認定こども園及び小中学校等を対象に、市内幼稚園の保育を参観して協議する保育見学会を実施した。主に5歳児のクラスを見学し、保育への工夫を見取ったほか、見学会後は、中学校区ごとに園・学校等が協議を行い、幼保小中間の連携を深めた。



見学会後の協議の様子

<幼保等及び小学校職員向け研修会>

國學院大學人間開発学部 准教授 吉永 安里氏を講師として招き、「幼児期の遊びが学びをひらく—架け橋期のカリキュラムの編成と実施—」と題して、幼保等の職員に加え

て、小学校職員を対象としてご講演いただき、幼保小の円滑な接続への理解を深めることができた。また、講演後は、中学校区ごとに、幼保小の連携について、講演を受けて活発な意見交換を行い、幼保小の連携を深めることもできた。

<子ども教育連絡協議会の開催>

年度の初めと終わりに市内の幼保小中が中学校区ごとに集まり、幼保小中間の交流・連携の確認や情報交換を行った。

各校(園)が用意した年間計画をもとに連携事業の日程等を決めたことで、異校(園)種間で計画的に連携を図ることができた。また、各校(園)の情報交換を行ったことで、異校(園)種への理解促進につながった。

<アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの編成支援>

幼保においては、訪問支援の際にアプローチカリキュラムの編成や就学に向けての取組について適宜研修や情報提供を行った。小学校においては、スタートカリキュラムを効果的なものに改善するための研修会を実施したほか、1学期に小学校1学年の授業を参観し、具体的な助言を行った。

また、各カリキュラムの編成や実践を充実させるための資料として「草加市幼保小中一貫教育プログラム」を配布し、活用方法を周知した。

令和4年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名：東京都八王子市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

本来、子どもの主体的な遊びをとおした学びを基盤として、保育は組み立てられていくものであるが、現状は、保育者主導の一斉活動が主活動として位置づけられており、子どもが能動的に遊ぶ環境に乏しい。アドバイザーによる訪問支援や研修会を開催し、子ども自身が環境に関わり、興味関心を広げ、資質能力が育まれていくことを伝え、更なる質の向上に努めたい。

【令和4年度における主な取組内容】

- 1 昨年度策定した八王子市乳幼児期の教育・保育の質に関する指針（乳幼児すくすくてくてくガイドライン）の普及促進
- 2 教育部局との連携強化と保・幼・小連携の推進
- 3 各種研修会の開催
- 4 幼児教育・保育アドバイザーによる訪問支援
- 5 八王子市幼児教育・保育施設における子どもの安全・安心月間

【取組内容の具体的な事例】

- 1 八王子市乳幼児期の教育・保育の質に関する指針（乳幼児すくすくてくてくガイドライン）の普及促進

昨年度策定した上記ガイドラインについて、市内約 200 か所の幼児教育・保育施設を直接訪問し、内容を説明するとともに、その活用を推進した。

- 2 子ども家庭部・学校教育部との連携強化

乳幼児期における教育・保育の重要性に鑑み、学校教育部との連携強化を図った。適宜情報交換会を開催し、保・幼・小における学びの連続性等について協議するとともに、市内小学校におけるスタートカリキュラムの実践状況を合同で視察し、接続期の取組内容について認識を深めた。

- 3-1 八王子市保・幼・小子育て連絡協議会講演会

玉川大学教授：大豆生田氏に登壇いただき、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた保・幼・小連携等について御講演いただいた。



- 3-2 就学支援シート研修会



園から小学校へ子どもの育ちをつなげるための本市独自の就学支援シートについて、園・小学校からの話題提供の後に、グループワークによって、その活用方法や保護者との関係づくり等について認識を深めた。

3-3 子どもの誤嚥事故防止に関する研修会の実施

「小児科医が考える“誤嚥対策”の現状」をテーマに市内小児科医に登壇いただき、食の安全・安心について御講演いただきました。



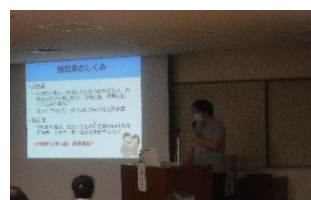
3-4 職種・世代別研修

よりきめ細かく保育者のニーズに合う研修内容を提供するため、幼児教育・保育アドバイザーを講師に職種や世代別の研修を創設した。



3-5 ハッチネットセミナー

発達障害のある子の理解と援助方法の取得のため、医師や心理士、各種療法士に御登壇いただき、年4回セミナーを開催した。



3-6 保育従事者研修

認可外保育施設を含む幼児教育・保育施設職員を対象に、保育理論や子どもの発達等、実行委員会にて内容を検討し年3回開催した。



4 幼児教育・保育アドバイザーによる「訪問支援」

市内幼児教育・保育施設を対象に、幼児教育・保育アドバイザーによる「訪問支援」を実施した。午前の幼児教育・保育を観察し、午後の時間帯においてカンファレンスを行い、幼児教育・保育の内容について助言を行った。



5 八王子市幼児教育・保育施設における子どもの安全・安心月間の実施

令和3年度から、夏休み明けの新たな学期の始まりである毎年9月を「八王子市幼児教育・保育施設における子どもの安全・安心月間」として位置づけた。園生活全般・保育環境・防犯等において、年度ごとに重点テーマを定め、点検や今年度改訂した安全・安心マニュアル等を用いた園内研修を実施するよう幼児教育・保育施設に要請し、その結果報告を求めた。

令和4年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名：新潟県聖籠町

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

当町では、令和4年度から新しい子育てシステムに移行し、3～5歳児を受け入れている町立こども園3園が町立幼稚園1園に、0～2歳児を受け入れていた私立保育園4園が0～5歳児までを受け入れる認定こども園となった。それに伴い、町立園教諭が私立認定こども園にも派遣されている。そこで、町内すべての園に対して等しく質の高い幼児教育を継続的に提供できるように、研修を強化してきた。また、これまでの学区ごとの一園一小から、複数園と小学校との連携・接続に変わったため、幼小接続カリキュラムの整備と複数園・小学校との連携・接続に向けた体制づくりに取り組んできた。

【令和4年度における主な取組内容】

- 幼児教育アドバイザーによる巡回訪問・研修支援の実施。園訪問による保育参観と助言は年間93日。指導者を招いた町立園・私立園・小学校合同研修会は7回開催。
- 幼小の円滑な接続と連携方法の構築。アプローチ・スタートカリキュラムの整備と検証。これまでの1園1小から、5園と3小学校の新たな連携・接続方法を構築した。
- 聖籠町の幼児教育の積極的な発信。リーフレットを町内3～5歳児の全家庭に配付。町立幼稚園の研究保育と協議会内容を実践集録にまとめ、町内園教諭・小学校に配付。

【取組内容の具体的な事例】

＜幼児教育アドバイザーによる巡回訪問・助言の実施＞

- 町立幼稚園には週1回・年間45日、私立認定こども園には各園月1回・年間48日訪問し、保育参観及び保育者・園長への助言を行い、研修意欲の向上や新しい体制への安心感につなげることができた。

【園の保育のドキュメンテーション作成】

- ・町立幼稚園の3・4・5歳児の研究保育の様子を幼児教育アドバイザーが写真と動画に撮り、遊びの様子と教師の支援をドキュメンテーションにまとめた。それを、町立幼稚園の実践集録に掲載するとともに、一部を町の広報紙とホームページに掲載し、子どもの力を伸ばす保育や遊びを通した学びについて広く知らせることができた。



＜園小接続と指導力向上に向けた研修会の実施＞

【小学校・町立園・私立園合同研究保育協議会（3回）】

- ・園小の円滑な接続を進めるために、新潟大学教授を指導者に、小学校との合同「研究保育協議会」を3回開催した。協議題を「幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿と小学校へのつながり」とし、町立幼稚園での遊びの動画を見て園での学びや育ちと小学校へのつながりについて協議し、学びの連続性について共通理解を図ることができた。



【町立園・私立園合同研修会（4回）】

- ・『**管理職研修会**』 小学校教諭の経験をもち、現在幼稚園長を務める講師による管理職研修。「幼児教育と小学校教育の連携と接続」をテーマに、幼小連携・接続の具体的な事例について学び、管理職としてどのように小学校と連携を図っていけばよいか理解を深めることができた。
- ・『**指導力向上研修会**』 新潟大学教授による全教職員を対象にした研修。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿からみた子どもの心の発達～聖籠町幼児期から小学校への接続へ向けて育てたい力に着目して～」をテーマに、町で目指す姿に向けて子どもの発達のとらえ方や支援の仕方について、貴重な学びを得ることができた。
- ・『**リトミック実技研修会（2回）**』 講師を招いて、「音楽を通して子どもたちの表現力や想像力を高めるリトミック指導（基礎編・応用編）」を学ぶ研修。
リトミックの意義や楽しく取り組ませるための効果的な指導法を学ぶことができた。



＜町立園長・私立園長・小学校長による関係者協議会（5回）の実施＞

○5園と3小学校との新たな連携・接続に向けて、町立園長・私立園長・小学校長による接続期カリキュラムの検討と、体験入学や情報交換会等の新たな連携方法の構築を行った。

- ・スタートカリキュラムについては、各学校での実践をもとに成果と課題を話し合い、それを令和5年度のカリキュラム作成に活かすことができた。
- ・5歳児の体験入学と新一年生保護者説明会をセットで町内園小同日開催にすることや、園小教諭による新一年生授業参観・保育参観の設定、新一年生学級編成に向けた合同情報交換会の実施など、新たな連携・接続を進めることができた。



タイムテーブルを設定した園小合同情報交換会

＜町の幼児期から小学校への接続に向けて育てたい力をまとめたリーフレットの配付＞

○町の「幼児期から小学校への接続に向けて育てほしい姿」をまとめたリーフレットを、令和4年度4月の町立・私立園5園の新しい開園に合わせて3～5歳児の全家庭に配付した。また、町立・私立各園に拡大版を掲示するとともに、町の広報紙やホームページにも掲載し、町内の園と家庭で目指す姿を共有しながら教育を進めることができた。



＜町立幼稚園の研究保育協議会の内容をまとめた実践集録の作成と配付＞

○町立園・私立園・小学校合同で開催した3回の町立幼稚園「研究保育協議会」の、保育実践と指導計画、大学教授の指導についてまとめた実践集録を作成し、町内園の教諭と小学校に配付した。また、有識者会議や連絡協議会委員にも配付し、委員からは「町の今後の実践に大変役立つものであり、ぜひホームページにも掲載して多くの方が参考にできるようにしてほしい」という感想をいただいた。



令和4年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名：静岡県袋井市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

公立私立の幼児教育施設が連携することはもとより、幼小中一貫教育や幼保小架け橋プログラム事業を通し、就学先の小学校とも密接に繋がる教育を目指して取り組んでいる。また、公立私立が共に学び合える研修や、保育現場における優れた実践、特色ある取組をもとに、すべての幼児教育・保育に関わる人と連携して子どもたちの学びと育ちを支えていくことができるよう、幼稚園、保育所、認定こども園、小学校との連携を進めている。

【令和4年度における主な取組内容】

- 幼保小接続に関すること
子どもたちの不安やつまずきをなくし、滑らかな幼保小の接続に向けた取組
- 特別支援体制の構築
関係機関と連携し、より良い支援体制の構築、インクルーシブ教育（保育）の推進
- 研修支援
保育者が参加しやすく、ニーズに応じた研修内容や研修方法の工夫
- 情報に関すること
教育・保育の質の向上に関する情報提供と県・各施設との連携推進
- 人材育成・その他
新規幼児教育アドバイザーやミドルリーダーの育成など

【取組内容の具体的な事例】

子どもたちの不安やつまずきをなくし、滑らかな幼保小の接続に向けた取組

①アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの開発、推進

・カリキュラム開発会議やワーキンググループ会議をとおり、袋井市としての「育てたい子どもの姿」を明示したプランの検討と作成を行った。作成した学園版のカリキュラムは、協力園・校から学園内の他の園・校に情報提供（公立私立問わず）し、各園・校の教育課程へ反映させて次年度から実施する運びとなった。そのことにより施設類型を問わず、袋井市として共通の「育てたい子どもの姿に向かって育てていくことができるようになった。



②就学前教育推進会議と振り返り個票の見直し

・幼小中一貫教育3年目を向かえ、園の担任と小学校1年生の担任がスタートカリキュラム、アプローチカリキュラムに対するさらなる理解と今年度の取組について共有を図るため、年4回実施した。公私立園、校それぞれの立場から協議を進めることができ、課題に向けた改善策を考え合えることができ、スタートカリキュラム時の児童の現状を幼保小が共有できたことにより、幼保小接続の意識が高まっている。



各園のニーズに合わせた研修支援

①要請訪問の実施

・園からの依頼により訪問し、保育について語り合い、深め合うことで園内研修をサポートしていった。本年度は、0～2歳児の小規模園からの要請も積極的に受けたことにより、昨年度に比べて公立園だけでなく、私立園からの依頼も含め、訪問回数が飛躍的に増えた。

園別要請訪問回数			
園別	R2年度	R3年度	R4年度
公立園	14	16	42
私立園	7	7	48
学校・学園	1	7	9
高等学校・その他	0	1	3
計	22	31	102

②自主参加型研修の企画、実施

（ニーズに合わせたテーマに対し、公私問わず自主的に参加する）

・子どもの特性の理解と支援、外国にルーツのある子ども・保護者への支援等をテーマに全6回実施、計111人参加した。時間外に実施したことで、私立園の職員も参加しやすく、学びたい気持ちをもった職員をサポートし、質向上へ繋げることができた。



令和4年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名：静岡県牧之原市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

本市は、令和4年度から公立保育所4園が民営化され、保育所12園（公5、私7）、幼保連携型こども園4園（公1、私3）、公立幼稚園1園となり、令和6年度には幼稚園と保育園が統合、数年後には公立保育所を1園残し全ての園を民営化する予定である。また、勤務体系が多様化し研修の時間や参加者の確保が難しい現状である。そのため教育・保育サービスや保育の質向上等の育成を図るとともに、学校教育課とも連携し幼児教育の推進のための事業を進めている。

【令和4年度における主な取組内容】

- ・研修支援（歳児別公開保育の実施支援、園長・主任の役割についての研修会、新規採用職員の研修会開催及び指導、園内研修参加）
- ・幼保小接続の推進（幼稚園・保育園・こども園・小学校の各学区の連携体制の把握）
- ・県との連携（アドバイザー研修会に参加、幼児教育サポートチームの活用）
- ・人材育成方針の（案）作成

【取組内容の具体的な事例】

＜歳児別公開保育＞

- ・内容：公私立12園の中で歳児別及び主任の担当園を決め、講師を招き研修を行った
9:15～10:30 保育見学 15:00～17:00 研修
- ・参加者：各園の該当年令担当職員、該当園園長・主任、指導主事、幼児教育アドバイザー

◎令和4年度は市内17園のうち12園（公7、私5）で合同研修を計画し、保育の質向上に向けて学年ごとに公開保育を行った。実際に保育を見て話し合うことで学びが多く、その後の保育に生かされている。

＜新規採用職員研修＞

- ・内容：令和4年度私立となった3園の新規採用職員の公開保育を行った
一人2回（前期と中期）計8回
9:15～12:00 保育見学 13:00～15:00 話し合い
- ・参加者：私立3園の新規採用職員（4名）該当園園長・主任
指導主事、幼児教育アドバイザー

◎若い職員同士なので、困っていることや悩みなど意見が活発に出て、実り多い時間となった。

一人2回行ったことで、1回目の反省を活かしたり、他園の保育の良いところを取り入れたりしている姿が見られた。

参加職員が0歳児や1歳児担当だったので乳児保育の基本を学び合うことができた。

<県の幼児教育サポートチーム活用>

・内容：新規採用職員研修全8回の中の1回に、静岡県のサポートチーム訪問事業として講師を招いて研修を行った。

・参加者：新規採用職員4名

指導主事、幼児教育アドバイザー

◎新規採用職員の保育を見ていただき、午後の研修時に「幼児の終わりまでに育ててほしい10の姿」の乳児からの捉え方や、園児の発達を促すのが保育士の援助である等の御指導をいただいた。また、他市町の様子等もお聞きでき勉強になった。



<園内研修参加>

・8園の園内研修に参加し、研修方法や職員の意識等を把握しアドバイスするようにした。

・kJ法（付箋に情報を記載し、付箋を並べ変えたりグルグルグループ化したりすることで、情報を整理していく手法）を利用するなど、職員一人一人の意見が反映できるように工夫していた。

◎各園の研修に参加したことで、職員間の関係性や雰囲気、園長や主任のかかわり方等を把握することができ、課題等に対して具体的にアドバイスをすることができた。



<幼保小接続の推進>

・内容：保幼小連絡会に参加（6月）（R5.2月）

園児と小学生との交流会に参加（11月）

・6月の連絡会では、当小学校に送り出した園の職員と一緒に1年生の授業を参観した後、児童の情報交換を行った。会の中でスタートカリキュラムについて伺い、時間割の融通や生活科での取組等工夫されていることをお聞きした。

・交流会では、1年生が園児を招待して音読を披露したり、休み時間に一緒に遊んだりしてくれたので、就学を楽しみにする園児の様子があがった。

・2月の連絡会では、令和5年度も連絡会や交流会に参加し、園児がスムーズに就学できるよう連携を取り合っていきたい旨を伝えた。



令和4年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」 主な取組内容概要

自治体名：静岡県富士市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

・幼稚園 14、保育園 32、認定こども園 15、小規模保育事業所 15、事業所内保育事業所 1、家庭的保育事業 7に、各アドバイザーがそれぞれの専門的な知見から巡回支援をしている。また、全施設の保育者が合同で専門的な研修を受けられる体制を整えているが、公立と私立や幼稚園と保育園の交流に対してお互いが遠慮しがちである。

【令和4年度における主な取組内容】

・富士市教育・保育キャリアアップ研修(乳児保育、幼児教育、マネジメント、障害児保育、保護者支援・子育て支援、保健衛生、食育アレルギー)
・園小接続委員会の実施及び教育委員会等が入った園小接続検討部会の実施、並びに架け橋プログラムをテーマに園小職員を対象にした幼児教育・保育講演会の実施。園小接続をテーマとした公開保育。
・特別支援に関する講演会及び実地指導。また発達促進芸術教育事業の実施。

【取組内容の具体的な事例】

<富士市教育・保育キャリアアップ研修

保護者支援・子育て支援の様子>

保護者側に立った理想の保護者支援をポスターにして発表した。固定概念に捉われない意見が多く、講師からは発想豊かな点を認められ、意見を積極的に伝えようとする受講生が多かった。

4年間富士市主催で行い、グループワーク等で園同士の交流ができ、いろいろな園の保育に触れ、自身の保育を振り返る機会となり、多くの保育者の質の向上に繋がった。



<園小接続の様子>

学習院大学の秋田喜代美氏に依頼し、オンライン(ZOOM)による公開保育を通して、小学校に何を伝えることが重要か、具体的な場面から取り上げて頂いたり、公開保育での幼児の姿と幼児期の終わりまでに育てて欲しい姿を照らし合わせるかなどを教えて頂いた。

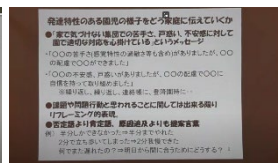


また、教育委員会等を交えた園小接続検討部会研修会を開催し、「実効性のある接続カリキュラムの在り方」について協議をした結果、顔の見える関係作りを始めようと市内13の中学校区で校長・園長交流会や懇談会を開催することができ、お互いの教育・保育

観の理解を深めたり、児童交流も計画するなど次年度の計画にも繋がった。

<特別支援研修講演会の様子>

日本相談支援専門員協会顧問の福岡寿氏に依頼し、「気になる子がいる1人担任のクラスづくりと保護者対応」についての講演



会を2回実施。1回目の講演を聞いて受講者から感想や質問を募り、2回目は応答する内容を盛り込んだ。講演を聞いて、保育者が困っている子どもの傍にいくのではなく、保育者は全体を常に見ながら、困っている子どもが保育者の傍に来て話をするという保育者の立ち位置を意識した保育や、最初から最後まで保育者が指示をするのではなく、「次はなんだったかな？」と子どもたちに問いかけ、子どもたちが自分たちで気づいて行動できるような支援をしてクラスづくりを実践する受講者が増えた。

<発達促進芸術教育事業の様子>

地域で活動する芸術家等をアドバイザーとして招聘し、芸術・文化活動において、五感を刺激された子どもたちの感情の表出に対して、作品等表現結果の



よし悪しの評価ではなく、子どもを認める言葉のかけ方や、子どもが遊びこめる雰囲気作りなどについて、現場での保育実践を通して学ぶことができた。

子どもも保育者も心から楽しみながら、支援児の興味を引き出したり、環境設定の仕方を学べたりしたことの効果は大きかった。

令和4年度「幼児教育推進体活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」

主な取組内容概要

自治体名：静岡県函南町

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

他自治体に比べて幼児教育体制整備は、本交付金が受託後の令和元年後から整備してきた。幼児教育センターを設置、幼児教育指導主事、幼児教育アドバイザーの配置等を行った。特に、幼児教育の実態(保育者の勤務・研修実態等)を把握するために、個別面談及びアンケートを実施してきている。その集計結果を踏まえ、課題を明確にし、課題解決に向けて方向性・取組年次を示した。ICT整備、保育者の処遇等の環境整備に関わる提案、幼児教育アドバイザー・子育て相談員による全施設種の園巡回訪問・研修支援等に取り組んでいる。また、保幼小中の接続についての研修資料作成・研修実施、保護者向け啓発資料の発行等を進めている。幼児教育の質向上を効果的効率的に進めることを目指して、幼保事務の一元化に取り組んでいる。

【令和4年度における主な取組内容】

- ・保育者の勤務実態、研修実態把握のための面談、アンケート調査
- ・保護者向け幼児教育リーフレットの作成・発行
- ・幼児教育アドバイザーによる巡回訪問・研修支援、子育て支援員による巡回訪問、就学支援
- ・保護者の保幼小接続に関するアンケート調査
- ・保幼小の接続を目指した研修会の実施、保幼小連絡会

【取組内容の具体的な事例】

<保育者の勤務実態、研修実態の把握>

町保育者の勤務実態、研修実態を把握するために、保育者との面談、アンケートを行った。令和2年度から面談やアンケートにより実態把握を進めている。この結果は、園を管轄する教育委員会、厚生部に回覧し、園・保育者が抱える課題を説明している。



【保育者との面談の様子】

課題は、園の人的配置、保育者の勤務環境、園児の生活の流れ等と幅広いが、少しずつ課題解消するような動きになっている。

これまで、保育者にとって園内研修が負担とか、研修の機会・時間がとれないとの意見があったが、改善傾向にある。一方で、勤務条件、仕事と家庭の両立等についての課題になっている傾向が顕著となった。構造的な課題、働き方改革の取組の遅れがあり、今後さらに改善をする必要がある。

<保護者啓発リーフレット作成・発行>

園では子ども、保育者がどのように生活しているのか、遊びは学び、園での子どもの育ち等について、保護者向けの園生活ガイドを作成・発行した。



↑ 【リーフレットの表紙】



↑ 【作成委員会の様子】

作成には、公立私立の保育園・幼稚園の保育者代表4名があたった。作成委員会で協議・検討された内容をまとめ、それを各園でも

検討し、その結果を作成委員会で検討するようにした。掲載写真も園、保護者の多大な理解・協力を得て、作成できた。園生活ガイドの作成を通して、作成委員会と園・保育者間での相互研修がなされていた。保護者には、配付時にこの冊子の効果を知るために、アンケート用紙を添付して実施し、アンケート結果を受けて、内容を検討する。

〈幼児教育アドバイザーの園訪問〉

園では、学級ごとに年1回の公開に努めている。各園では保育者に負担感少なく、公開できるよう工夫して園内研修に取り組んでいる。園内研修は、各園の年間園内研修計画により進め、他園からも参加できるようにしている。幼児教育アドバイザーは、園の研修計画に基づき、日程調整をして、保育参観と振り返りの会に参加している。振り返りは、午睡の時間や公開日にできない場合は、後日に設定している。保育の様子は、タブレット、カメラで録画した動画を視聴しながら意見交換をしたり、付せんを活用して意見交換をしたりしている。各園には「語り合い学び合い」を踏まえ、園の研修テーマに取り組んでいる。研修時間の確保、その方法等とともに、保育の質向上に関わる課題も明らかになっている。

〈公開保育の実施〉

町教育委員会指定園の1園が公開保育を担当した。幼児教育アドバイザーが園内研修に参加し、また助言者として玉川大学・若月芳浩氏に7月、2月に来園していただいた。園では助言により、研修テーマ、仮説、実践の内容を再検討・確認をして研究を進めた。

公開保育日には、町内保育者、小学校教員、隣接の保育者が参加した。午前は公開保育、午後は振り返り、全体会(実践研究発表等)で若月氏の講演「保育者が保育を楽しむためのヒント」、分科会を行った。公開保育は、普段の活用内容およびその継続した内容を参観していただいた。参加者には観察者よりも実践者の視点で参観することや、参観して学んだことを意見として提示すること等を依頼した。

公開保育の担当園・保育者の負担軽減を進めるとともに、他園の保育者との意見交換できる機会を増やしていくように計画を進める。

〈保幼小接続〉

保幼小連絡会を3回実施した。6月、保育者が小学校1年生の授業参観後、個別に保育者と小学校担任が意見交換をした。8月、保育者と小学校1年担任、教務主任が参加し、接続期カリキュラムについて協議した。県幼児教育センターのサポートチームの講師による講演を行った。3月、園から小学校に学校ごとに園が就学児についての引継ぎを行った。3回の保幼小連絡会のほかに、園校では接続期カリキュラムがあり、主幹・教務主任研修会、特別支援コーディネーター研修会では保育者と小中教員の合同研修会を各3回実施した。

また、年長児と小学1年生の保護者を対象に、接続状況に関するアンケートを実施して実態を把握した。小学1年の登校しぶりは、2020年度調べより7%減じていること等が明確になった。



↑【動画視聴しての研修の様子】



↑【研修の様子】



↑【公開保育全体会の様子】



↑【公開保育分科会の様子】



↑【6月保幼小連絡会の様子】



↑【8月保幼小連絡会】

令和4年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」 主な取組内容概要

自治体名：滋賀県東近江市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

東近江市の幼児教育施設は、公立18園（幼稚園5園、認定こども園13園）、私立9園（保育園3園、認定こども園6園）の27園である。研究主任、幼小連携担当者、特別支援教育コーディネーター及び子育て支援員の育成を取組の4本柱として、幼児教育センターのアドバイザー（指導員）を中心に巡回や研修を行い、幼児教育の質向上を図っている。

【令和4年度における主な取組内容】

- ・指導員の園巡回指導（園内研修、幼小連携、発達支援、市新採研等）
- ・4本柱の質向上研修や保育力アップ講座（実技等を含む）の実施
- ・教育委員会と連携した幼小連携の取組
- ・人材育成指標の活用と検証
- ・園内研究報告会及び講演会の実施（市外にも案内）

【取組内容の具体的な事例】

<幼小連携担当者育成研修の様子>

幼小連携モデル地区を指定し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点に研修会（公開保育・公開授業・研究協議）を行った。市内の幼小連携担当者が参加し、保幼小の教育の相互理解が深まった。



<保健研修の様子>

養護担当者会が中心となって、エリアごとにアナフィラキシー等の緊急対応実技研修を実施し、「病児保育事業」の病院看護師・保育士は公私立10園で実施した。緊急時における対応技術の向上、衛生管理の再確認ができた。



<研究主任育成研修の様子>

講義での指導と各園の実践をあわせて意見交流することで研究主任の育ち合いの場ともなっている。年度の終わりには研究主任が中心となって自園の園内研究をまとめ、うち2園は「園内研究報告会」で他市町にも報告している。ここ数年の取組は、若手研究主任の資質向上につながっている。



令和4年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名：滋賀県近江八幡市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

就学前施設数は、公立10（幼稚園4、幼稚園型認定こども園1、幼保連携型認定こども園2、保育所2、家庭的保育事業所1）、私立24（幼保連携型認定こども園5、保育所10、小規模保育事業所7、家庭的保育事業所2）であり、施設数・園児数共に3倍近く私立が上回っている。平成22年度より就学前施設の管轄一元化により幼児課が全ての施設の担当課となる。公私立・施設類型・規模に関わらず共通の目的“目指す子ども像”に向けた保育の展開と保育の質向上のため近江八幡市就学前教育・保育育成指針を平成19年に策定し31年に改訂。令和4年4月幼児教育センターを幼児課内に開設し、幼児教育センター長（幼児課長兼務）幼児教育・保育アドバイザー2名配置。

【令和4年度における主な取組内容】

- 1、幼児教育センターの設置、幼児教育・保育アドバイザーの配置
- 2、幼稚園教諭・保育士・保育教諭等の専門性の向上
 - ①研修支援、実態調査・研究②キャリアステージ研修・全体研修・専門研修・出前研修実施③保育内容研究（年齢別公開授業・研究協議）④巡回指導訪問⑤観察訪問・発達支援巡回訪問
- 3、幼保小接続の推進（リーフレット作成のための委員会活動・教職員の合同研修）
- 4、域内全体の質の向上・ミドルリーダーの育成・園内外の研修支援
- 5、情報共有及び相談支援や助言
- 6、人材育成キャリアステージの更新（管理職候補ステージの見直し）

【取組内容の具体的な事例】

【専門研修】病気・怪我対応研修会・離乳食・食物アレルギー研修会

乳幼児がかかりやすい病気や保育中に起こりやすい怪我の対応について、エピベンの実技も含み具体的な対処方法を学んだ。

また、園所におけるアレルギー対応について、管理栄養士から基本原則や「やってはいけない」禁忌事項の説明を受けた。

各園所からの質問にも一問一答で答えてもらった。

※専門研修では、安心安全な生活を送るための正しい知識と危機管理の観点から、万一、事故や体調急変などの緊急時の際の対応も、視聴覚教材も使用し具体的に学んだ。

【保育内容研修会】「子どもが主体的に遊ぶ環境と援助」

大学で未来の保育者を養成されていて、県内の各種研修会でも講演をされている講師に、保育内容の基礎の講演をしてもらった。

また、研究協力助言として（市内の園所の状況を伝えた上で）園内研修や研究の重要性についても資料を基に説明してもらった。



【キャリアステージ研修会】「発達のみちすじ～検査結果を参考に～」

発達支援体制研修の経験年数別事例研修会で、長年講師をしていた
だいている講師に、乳幼児の発達段階に寄り添った保育の支援方法
を教わった。



【年齢別保育内容研究会】

各年齢別に市内の担当者が一堂に集まり、公開保育で子どもたちの姿
や保育者のかかわり、保育環境を見た後、午後は環境と主体性のテーマ
に沿って話をしあった。実践者にそれぞれの園所から質問をして情報
交換し、研究助言者の講師に保育者のかかわり方などの話を聞いた。



【出前研修】

教職員の経験年数や配置、勤務形態など各園の実態は様々で、研
修体制がとりにくく外部の招集型研修に参加しにくい実情を鑑み、
アドバイザーが園に出向いて出前研修を行った。その際、各園所の
ニーズや課題を踏まえ事前打ち合わせをして4コースのテーマから
選択してもらい実践理解につながる研修を開催した。日や時間も施
設の要望に併せて(1日2回・複数日連続訪問他)柔軟に対応し、可能な限り職員が参加できるようにし
た。



※日常の保育活動において、望ましい環境を整えることと主体性を育むための基本的な保育者の姿勢
と、発達のみちすじや子どもの育ちの理解をした上で援助をしていく事を学べる機会となった。

【近江八幡市版幼保小接続カリキュラムリーフレット検討会】

「幼児期からの育ちや学びを生かし主体的に学習に向かう子どもの育
成」を目指し、教職員がお互いのことを知る取組を進めてきた。今年度
は、幼小接続の意識を高めるリーフレットの作成の検討と並行して、各
小学校区での公開授業や研究協議で「10の姿」をテーマにドキュメンテ
ーションミニ演習を教職員で行った。※同じ場面、同じ子どもの姿でも見方・考え方が異なることが
わかり、共通理解を図る取組となり、カリキュラム作成の手がかりとな
った。



【保育充実保育士及び研修担当合同会議】

本市独自の補助金事業として、保育充実のための保育士を私立保育所・
認定こども園に配置する事業を開始し、フリーの保育士を配置すること
で研修・研究会を充実させ、各私立園所のミドルリーダーの人材育成を行った。定期的に充実保育士
会等を開催し各施設の取組のサポート体制の確立に努めた。市内全域の公立園所の研修担当との合同
会議や中学校区毎のエリア会議でも、情報交換や研究や研修のあり方や手法について伝授した。研修
時間の取り方や若年保育者の参加負担の軽減や育成の話も現場の声として聴かれた。



※回を重ね協議に深まりができ、少しずつ研修に対する考え方や姿勢に前向きな変容が見られた。

【巡回支援訪問・相談支援】

コロナ禍での主な行事開催時の各年齢のめあての立て方や日々の職員体制の相談、特別な支援を要す
る子どもたちの就学や進級の際の各関係機関との連携の橋渡し役など、多岐に渡る相談に対応した。

令和4年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
 主な取組内容概要

自治体名：京都府舞鶴市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

舞鶴市乳幼児教育センターを拠点に、「舞鶴市乳幼児教育ビジョン」に基づき、『乳幼児教育』『発達支援』に関する事業を実施。乳幼児教育コーディネーターや発達支援教育コーディネーター、保幼小接続コーディネーター、相談員の5名を配置し、「情報発信」「研究」「研修」「連携」「園訪問」を通じて、家庭や地域、園校の乳幼児教育を「コーディネート」「サポート」している。公開保育を中心とした乳幼児教育の質の向上研修は公私、園校種を越えて学び合う機会となっている。


【令和4年度における主な取組内容】

- ◎「保育者研修・育成指標」をもとに経験年数等に応じて乳幼児教育の質の向上研修を実施（ドキュメンテーション、マネジメント、乳児保育・教育、公開保育など）
- ◎保幼小接続コーディネーターの配置と保幼小連携の充実
 - ・幼児期の学びをいかしたスタートカリキュラム
 - ・架け橋につながる連携協力園校（18校区）による5歳児と1年生の連携活動
 - ・1年生と5歳児の担任を対象とした保幼小連携研修（4回）

【取組内容の具体的な事例】

ドキュメンテーションを活用した公開保育の取組～参加者も実践者も主体性を発揮～


日いすまろ だるまさん
 保育者と絵本を楽しんでいます。膝の上で、ゆったり、ほっこり、安心のひと時です。大好きな絵本を繰り返し読んでもらったり、保育者の真似をしたりして楽しんでいます。
 保「だるまさんの…め」
 子「めっ！」
 #もう1回見る？で笑顔
 #だるまさんシリーズ
 #ほっこり時間



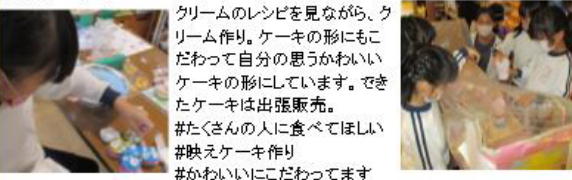
公開保育の方法として、参加者も実践者も互いに主体的に関わることでできる新たな取組に挑戦しました。公開保育の参加者は保育を参観し、「心ゆさぶられたとっておきの場面」を写真撮影します。どの場面を写真に撮ろうか考

えることは、より主体的に保育を見ることにつながります。参観後に写真をカラー印刷し、写真の場面をテーマ（13文字）とキャプション（140文字）で綴り、インスタグラムの記録（ドキュメンテーションのひとつ）を作成します。ここでも写真や子どもの言葉をどのように表現するか、育ちや学びは何か、参加者自身が主体的に考えることになります。グループワークでは、その記録をもとに参加者と実践者が保育を語り合います。それぞれ園も経験も違う保育者同士が語り合うことで多様な見方、考え方に会い、学び合

赤ちゃんかわいいね！
 お母さんになりきって赤ちゃんのお世話をしています。まずは、赤ちゃんがりんごを食べてから、「りんごを食べようね」「あ〜ん、おいしい？」と赤ちゃんに食べさせています。
 「赤ちゃんが寝たよ、し〜」赤ちゃんが寝たので、そっと歩いて戻る〇くん。赤ちゃんが寝る前には、寒いからとこれ(カッパ)を着せてとお願いしていました。



出張ケーキ屋さん
 クリームのレシピを見ながら、クリーム作り。ケーキの形にもこだわって自分の思うかわいいケーキの形にしています。できたケーキは出張販売。
 #たくさんの人に食べてほしい
 #映えケーキ作り
 #かわいいにこだわります



うという効果があります。

※参加者の記録から抜粋して紹介『乳幼児教育の質の向上研修ニュースレター第5号』より
連携協力園校の5歳児と1年生の連携活動の充実

教育委員会と連携し、市内の18校区からなる連携協力園校の5歳児と1年生の連携活動を実施しています。しかし、交流をベースとした内容から脱却することが難しい園校もあり、学びの互恵性、連続性のある連携活動にするため、保幼小接続コーディネーターが各園校に出向いてサポートをしたり、年間を通じて研修を実施したりしています。研修では、連携活動の実践事例を写真や動画を使って紹介しました。

【連携協力園校】与保呂小学校 1年生（13名） さくらこども園 5歳児（23名）

【場所】さくらこども園

【活動の特徴】子どもの興味や関心をもとに/普段の遊びや活動から/音楽でつながろう(第2回)

【第1回】はじめての出会い 緊張をほぐしたい ワクワクする活動を

～園の運動会で楽しんだ玉入れ～

5歳児のきっかけは、重さの書いてあるカードゲームでした。数字は分からないので、目で見て分かるはかり「天秤ばかり」を準備しました。天秤にいろいろなものをのせて重さ比べをしてきたことから、運動会でも重さ比べの玉入れをすることにしました。このことは、1年生にも伝わるように運動会や遊びの経過を知らせたおたよりを掲示してもらいました。



玉入れの玉づくりからスタート。5歳児は玉のイメージは丸の形だけで、牛乳パックも環境としてはありますが、使っていませんでした。1年生が加わることでどんなアイデアが生まれるか、楽しみです。



<1回戦>…奇跡的に同じ重さ

そこで、対話の時間、作戦タイムが始まりました。

「新聞紙の玉にガムテープまいたら重くなるで」

「箱に新聞紙詰めた方がいいかも」

「くっつけて大きしたらおもくなるんちゃう？」

「下から投げたら入りやすいで」

「近くから投げる」「両手で投げる」

「入れれんかったやつをすぐに取りに行かないといけない」

など、様々なアイデアや考えが出てきました。保育者と教師が子どもと一緒に考え、子どもの思いを支えていく関わりを大切にすることで、対話を通じてさらに意欲や探究心が深まっています。



<2回戦>…たくさん入っているように見えるかごが負け

保育者は「どうしてこうなったんやろうね」と、子どもに考えさせるため、子どもの言葉を待ちます。

1年生「最初に大きいのが入ったから、大きすぎて他の玉が入らなくなって、かごの中に隙間がたくさんできてしまって、重くならなかったと思う」

5歳児「丸い玉は転がってはじいて落ちたけど、平べったいものを作ってそつとのせたら、積み木みたいにいっぱいひのせれて重くなったと思う」と、自分なりに考えたことを話してくれました。一緒に活動することで、様々な考えを聞き、さらに新たな気付きがあり、学びが広がっていきます。



※『乳幼児教育の質の向上研修ニュースレター第9号』より

令和4年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名： 大阪府大阪市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

就学前施設（保育所・幼稚園・こども園）と小学校が互いの教育・保育を理解し合い、子どもの発達や学びの連続性、一貫性を確保し、子どもに対して体系的な教育を組織的に行うため、就学前教育と小学校教育の「連携・接続」の進め方とあり方を研究している。また、センターに幼児教育アドバイザーを配置し、就学前教育カリキュラムについての研修の実施やアドバイザー研修受講の集約等を行うことで市内就学前施設における幼児教育アドバイザー育成を推進している。

【令和4年度における主な取組内容】

- ・ 保幼小連携・接続推進事業第3期として小学校を核とした近隣就学前施設（3～4施設）を1つのブロックとして3つのブロックをつくり、令和4年度・5年度の2か年で就学前教育と小学校教育の「連携・接続」の進め方とあり方を研究
- ・ 大学教授等の有識者を講師として招聘し、センター主催の研修会を年3回開催

【取組内容の具体的な事例】

<小学校の生活を動画撮影>

就学前施設の教職員が小学校を訪問して、学校内を動画撮影し、各就学前施設で子どもたちと見た。小学校生活に不安に思っていた子どもも、教室の中や授業の様子、先生方のお話、給食の様子等のビデオを見ることで、イメージできたようだった。動画を見た5歳児から小学生に聞きたいことがいくつか出たので、指導講師の助言により Teams で交流することにした。

<5年生と5歳児との Microsoft Teams でのオンライン交流>

Teams での交流当日は、5歳児が「忘れ物をしたらどうするの?」「牛乳は毎日出るの?」などを質問した。5年生に優しく丁寧に分かりやすく教えてもらううちに、お互いに緊張していた様子が打ち解けて、柔らかい表情になった。



5歳児は、不安に思っていたことが心配しなくても大丈夫であることが分かり、小学校進学を楽しみにする姿が多く見られるようになった。また、Teams での交流が初めてで、子どもたちは自分達や小学生が画面に映っているのを見るだけでも驚いた様子だった。

5年生は交流後、「めっちゃ、かわかった。」「〇〇の弟、おったなあ。」と、話している児童が多く、4月から新しい1年生が入ってくることをとても楽しみにしている様子だった。

コロナ禍ならではの交流を通して、入学する子ども、迎える児童ともに期待をもつことができ、教職員にとっても良い経験ができた。

令和4年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名：大阪府堺市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

令和2年に幼児教育センターを設置。「堺市幼児教育基本方針」を改定し、公立園の研究実践機能を強化することを明示しつつ、民間園との連携にも重点をおいている。

民間施設が85%を占める中、市内の幼児教育の質向上に向けて、幼児教育センターの取組を充実させるとともに、令和3年度より市立幼稚園（研究実践園）において、公開保育を実施し、民間園とともに研究を進める仕組みを構築。

【令和4年度における主な取組内容】

- すべての幼児教育施設を対象とした「幼児教育研修会」や、ミドルリーダー育成のための「幼児教育実践交流セミナー」の実施
- 配慮を要する幼児に対する支援について、大学教員や臨床心理士等の専門家による巡回相談の実施
- 市全体の幼児教育の質向上を図るための仕組づくりとして、公立幼稚園の研究実践機能の強化および専門家派遣
- 幼児教育アドバイザー等を幼児教育施設に派遣する「園内研修支援事業」
- 「保幼小合同研修」「ワクワクひろば事業」の実施、就学支援情報「わくわくスタート堺っ子」のホームページ掲載

【取組内容の具体的な事例】

＜幼保小合同研修会の様子＞

年間3回の合同研修会を実施。第1回では、幼保小架け橋プログラムを含む「幼小接続の動向について」、担当指導主事より情報提供。また、各学校園で作成している接続期カリキュラムを持ち寄り、協議を通して相互理解を図った。第2回では、小学校全校、就学前教育・保育施設121園の教員・保育教諭等が一堂に会し、専門家による講演及び個別情報交換を行い、連携を深めた。第3回では、幼小接続に取り組んでいる校区による実践報告と専門家による講演を行った。実践報告では、年間を通して互いの保育・授業を見合い「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに意見交流をしたり、ともに指導案づくりを行ったりした取組事例の紹介があり、少しずつではあるが子どもの姿を語り合い、接続を考える取組が始まっている。



＜幼児教育実践交流セミナーの様子＞

令和4年度も2年計画で新たに参加者を募集し開催。25名の保育教諭等が参加している。担当指導主事より園内研修の事例紹介を行うとともに、公立こども園が園内研修を公開。民間園による園内研修の報告のほか、保育見学の機会も設定。指導案を配布する公開保育ではなく、各施設の環境や普段の活動等を気軽に交流し合える取組として、「ちょっと公開保育（保育見学）」をキーワードに、施設間交流を進め、種別を越えたつながりや情報交換の場となっている。



令和4年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名：大阪府八尾市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

本センターで実施している幼児教育研修については、公立私立や施設類型にかかわらず全ての就学前施設に案内している。また、本センターと共に、公立こども園の主幹保育教諭（幼児教育アドバイザー等）が、幼児教育研修の企画・運営も担っている。

府に認定されている幼児教育アドバイザーを対象として、フォローアップ研修を実施し、『幼児教育アドバイザーによる企画研修』を企画・実践・評価するという一連の流れを学ぶ機会としている。

【令和4年度における主な取組内容】

- ・ 幼児教育研修の開催
（幼児教育保育内容研修、幼児教育アドバイザーフォローアップ研修、幼保こ小合同研修会など）
- ・ 園内研修等への講師派遣
- ・ 幼児教育研究（保育公開、研究討議、研究報告会、研究冊子の作成など）
- ・ 特別支援教育・保育巡回指導
- ・ 実践フォト&事例の募集

【取組内容の具体的な事例】

＜幼保こ小合同研修会の様子＞

年間を通して、全4回の研修を企画している。第2回は、就学前施設職員による小学校の授業見学と小学校教員による就学前施設での保育見学を実施した。第3回は、中学校区の13班に分かれてグループワークを行った。①第2回の見学を通して感じたこと（共通点・違う点など）、校種間で今後どんなことを取り組んでいきたいかを『意見整理シート』にまとめる。②本市で作成した『接続期における教育・保育実践の手引き』（八尾市 HP 掲載 <https://www.city.yao.osaka.jp/0000025422.html>) を活用し、スタートカリキュラム（たのしみタイム編）をグループにて作成した。「スタカリの作成では、こども園での指導方法も確認しながら進められたので、とても参考になりました」「1つのテーマに絞っているいろいろな意見が出て、エピソードも交えて話し合えて楽しかったです。聞いたことを園でも伝えていきたい」との意見が出た。このように先生同士が交流するきっかけとなる研修をすることで、先生たちのもっとつながりたいという気持ちが盛り上がり、幼保こ小の連携の大切さを感じたとの声もあった。積み重ねられていくような研修会を企画立案していきたい。



<幼児教育アドバイザーによる企画研修の様子>

幼児教育・保育の推進に貢献できる資質能力の向上を図ることを目的として、研修の企画・立案・実践・評価という一連の流れを学ぶ研修を実施した。『みんなで見つけよう！遊び（保育）がもっと楽しくなるイ・ロ・ハ』と題し、経験年数1年～7年の先生を主な対象者として企画した。架空の保育指導案をもとに、個人ワークで環境構成や保育者の援助を考え、その後グループワークでそれぞれの意見を出しながらよりよい手立てを考え合った。最後に幼児教育アドバイザーから指導計画の考え方や保育指導案を作成する時のポイントなどを伝えた。参加者からは「グループで話し合いながら作成することで色々な視点からの考えが聞け保育がより楽しくなる気がしました」「他園の先生方の意見を聞いたり、アドバイザーの方から話を聞いて、ねらいの大切さ、子ども一人ひとりの援助の大切さなど、沢山学ばせていただきました」などの感想があった。幼児教育アドバイザーとしては「企画の際には何を伝えたいか、何を学んでほしいのかを明確にして取り組むことが必要だと感じた」「見通しをもって、計画的に進めていくこと、準備することが重要であると感じた」という様々な気づきや学びと共に、研修受講者の姿や感想から企画運営する楽しさや達成感も感じる事ができたようだ。

<市長部局との連携>

教育委員会事務局の教育センター（幼児教育グループ）と市長部局の幼児教育担当課（3課）のメンバーで毎月会議を実施し、研修や研究（園内研究会や事例研究会の共有）、こども園に関する事、市の施策などについて話し合い、幼児教育の発展・推進を図る機会としている。

令和4年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名：大阪府箕面市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

- 公立・私立や、幼稚園・保育所・認定こども園などといった施設種別の垣根を越えて、市内すべての就学前施設をつなぎ、ともに高めあうため、そのコーディネートを行う組織として、令和4年10月に「保育・幼児教育センター（以下、「センター」と言う。）」を開設しました。
- センターでは、市内全ての就学前施設を対象とした巡回訪問や研修・研究部会を通して、保育・幼児教育全体の質の向上を目指しています。さらに、配慮を必要とする子どもへの支援の充実、小学校教育との円滑な接続などのテーマにも取り組んでいます。

【令和4年度における主な取組内容】

- ①巡回訪問（市臨床心理士と幼児教育サポーターが市内就学前施設を訪問）
- ②市内就学前施設の職員を対象とした保育・幼児教育等にかかる研修会の企画・実施
 - ・幼保小の接続にかかるワーキンググループでの研究・討議
 - ・ICTを活用し、オンデマンド配信など、受講しやすい環境の整備
- ③支援保育・支援教育研究部会の開催

【取組内容の具体的な事例】

＜巡回訪問の様子（市臨床心理士同行）＞

- ・専門的な知識や豊富な実務経験をもつ「幼児教育サポーター」と臨床心理士が市内就学前施設を訪問し、保育・幼児教育の内容等の相談に対して、ともに考え、解決に向けたサポートを行いました。
- ・巡回訪問のタイミングのみならず、園の課題や園内研修などの相談を随時相談を受け、ともに解決に向けて考えることができる関係性の構築ができました。



＜救急救命研修会の様子＞

- ・公立保育所の看護師が講師を務め、市内就学前施設職員を対象に、AEDの使用法や心肺蘇生法などを学ぶため、研修会を行いました。いざというときに備え、必要とされる知識や動き方を体験することができました。



<幼保小の接続にかかるワーキンググループでの研究・討議の様子>

- ・ 公立・私立の保育者等と小学校教諭で構成されたワーキンググループで、幼保小の接続にかかるドキュメンテーションを実施しました。
- ・ 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿が就学後の生活科をはじめとした教科への繋がり方などといった、共通の視点を養うために、ドキュメンテーションや意見交換を行い、相互の教育活動について、理解を深めました。



<ICT 活用事例>

- ・ 研修を受講しやすい環境を整えるため、Youtube を活用したオンデマンド配信による研修を取り入れました。オンデマンド配信の総視聴回数は1,949回でした。

<支援教育研究部会の様子>

- ・ ワーキンググループでの活発な議論や講師との意見交換を通して、支援を必要とする子どもへの理解と合理的配慮、対応等について、学ぶことができました。



令和4年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」 主な取組内容概要

自治体名：兵庫県伊丹市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

令和2年4月に開設した「伊丹市立幼児教育センター」は、公私、施設類型の別なく本市全ての就学前施設の幼児教育・保育の質の向上を図ってきた。

開設以来、継続的なアドバイザー訪問や幼児教育研修会、「伊丹市幼児教育シンポジウム」の実施などにより、民間施設も含めた市内就学前施設との関係性が構築されつつあり、各施設の教育・保育方法や環境の構成、特別な配慮を必要とする幼児への対応など、保育の質の向上につながる相談と、サポート体制が充実しつつある。

【令和4年度における主な取組内容】

- ・ 幼児教育アドバイザーによる就学前施設訪問事業
- ・ 「伊丹市保育環境構成のてびき」作成及び市内全就学前施設への配布
- ・ 各種研修会、研究会の企画、開催
- ・ 学校指導課と連携した担当者会や研修の開催等、幼小接続の推進

【取組内容の具体的な事例】

<幼児教育アドバイザー訪問の様子>



市内保育施設からの訪問依頼に応じ、保育環境の構成の見直し等、継続的な助言を実施。他、若手職員等へのきめ細やかな声掛け、必要に応じて資料の提供や相談等をサポートし、人材育成に努めた。

<架け橋担当者会の様子>

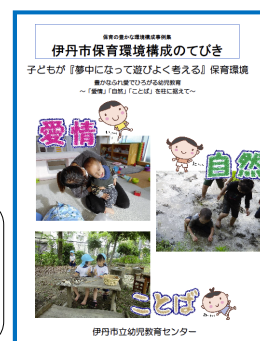


市内の就学前施設職員と小学校教諭がグループワークを行い、「架け橋期」の子どもの学びについて意見交換を行い、相互理解を図った。

<伊丹市幼児教育シンポジウム 2022 の様子>



市内外から400名余りの参加。玉川大学大豆生田教授、関西学院大学橋本教授を迎え、「保育環境の構成」をテーマに公立、民間の市内4施設が実践発表及びパネルディスカッションを行った。子どもが遊び込む環境の構成のあり方等について発信し、乳幼児期にふさわしい環境の構成について学ぶ機会となった。



令和4年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名：兵庫県西脇市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

平成29年度、教育委員会管轄に幼保連携課を新設するとともに、市内全ての就学前教育・保育施設の保育の充実を図るため幼児教育センターを設置した。幼児教育施設は、私立幼保連携型認定こども園（8園）公立幼稚園（拠点園1園）からなり、3名の幼児教育アドバイザーと園が『安心して相談し合える関係性』を目指し、公私（官民）すべての園に向けて研修や現場訪問・第三者評価等を行っている。

【令和4年度における主な取組内容】

- ① 幼児教育アドバイザーによる現場交流事業（現場訪問）
- ② 市内共通カリキュラムに基づく保育の浸透と理解を図る第三者評価（視察訪問）
- ③ 幼保交流研修の充実（キャリアアップ・小学校との接続・特別支援学習会 等）
- ④ 園小接続と特別支援（園小接続にむけた教育委員会との連携、特別支援教育と保健・福祉事業との共通理解）

【取組内容の具体的な事例】

【令和4年度における主な取組内容】

①＜現場訪問の様子＞

訪問する際は、基本2名体制で訪問し、各園の特色や保育等を尊重し、園や保育者との信頼関係を育んでいくことを大切に進めていった。参観・面談・指導案や特別支援への相談等、園の希望に応じながら行った。

訪問回数：82回（内6回は、拠点園での参観）



②＜質の向上推進委員による視察訪問の様子＞

市内共通のカリキュラムの浸透と質向上のための自己評価・園評価の取組で、委員が年2回各園を訪問し、すべてのクラスを参観・担任と面談を行い、保育者の質問や保育環境・関わり方・言葉かけについて助言を行っている。4年目となる令和4年度は、『今年、頑張りたいこと』を保育者が記入し、さらに訪問当日、園長が園の特色や園として取り組んでいきたいことを話すことで、園の主体性がより発揮できた。



③<園小接続における3つの取組の様子>

(1) 交流訪問

市内すべての園・小学校教職員等が、進学先の小学校や園の参観を行い、まずは、お互いのことを『知る・見る（実態把握）』機会とした。園関係者の訪問を早い時期にすることで、授業の様子を知るだけでなく、卒園した子どもたちの様子を見たり、小学校と園の様子について情報交換をしたりすることができた。また、夏季休業期間中に小学校教諭が訪問する時には、園の保育を小学校に生かすという視点をもって参観することでスタートカリキュラムへのつながりを図った。

(2) 研修

小学校との接続やカリキュラムに関して、合同研修を行った。公開保育や講義をとおして、年齢に添った子どもの遊びと小学校との学びへのつながりに対して共通理解を図ることができた。

(3) 接続カリキュラム委員会（令和4・5年度）

研究委員は、就学前教育・保育代表校園長、代表小学校教諭や保育教諭となっており、学識者をアドバイザーに置いて構成。令和4年度は、4回の委員会を行い、校区ごとや園小担当者に分かれたグループ協議を中心に、お互いの学校園の実態を知り、理解を図った上で、本市独自のスタートカリキュラム・アプローチカリキュラムについて検討した。



④<保健・福祉部局との連携の様子>

特別支援学習会（幼保交流研修）では、地域の特別支援学校コーディネーター、障害者基幹相談支援員、心理学教授等を講師に迎え、現場の保育教諭とともに幼児、児童にかかわる関係課、そして小学校教諭等と一緒にワークに取り組んだ。

令和4年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名：奈良県奈良市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

本市では、中堅層の保育者の不足や若手職員の増加、園の小規模化・単学級の増加により教育・保育の共有や技術の継承が困難な課題があったため、教育・保育に関する指導的役割の中核を担う現役副園長を対象とした「幼児教育アドバイザー育成プログラム」を開発した。幼児教育アドバイザーの主体的な学びと循環的な学びを構築する「育成しつつ活用する」人材育成体制の構築を推進し、その深化と充実を目指し取組んでいる。

【令和4年度における主な取組内容】

【人材育成の循環を目指した研修体制の充実】

・「奈良市保育教育士育成指標」を活用したステージ別研修の実施

【「社会に開かれた教育課程」の実現を目指した教育・保育の発信】

・乳幼時期の教育・保育の重要性を発信する「でいあシート」の検討・作成

【取組内容の具体的な事例】

＜「奈良市保育教育士育成指標」を活用したステージ別研修の様子＞

幼児教育アドバイザーが「奈良市保育教育士育成指標」を活用し、受講者が身につけるべき資質・能力を考慮しながら、アクティブステージ研修（経験年数4～10年）・ミドルステージ研修（経験年数11年～）の企画・運営を行った。両ステージ共に、往還的研修を取り入れ、アンケート内容を活かすことで、受講者は身に付けたい資質・能力に応じた研修を受講することができ、研修の学びが自園での実践につながるものとなった。また、幼児教育アドバイザー自身も、各ステージに応じた研修を企画・運営する資質・能力の向上となった。



＜こ保幼小連携・接続と保護者との関係構築に関する研修の様子＞

経験年数11年以上の園職員を対象としたミドルステージ研修では、「こ保幼小のよりよい連携・接続に向けて—保護者との関係構築から—」をテーマに、学識経験者スーパーバイザーに講演していただいた。こ保幼小接続に向けての保護者との関わりについて「園と家庭のつながるシート」をもとに、各園での取組みを参加者同士で語り合い、学びを深める研修とした。往還的な研修とすることで、教育・保育内容を保護者に伝えることの意識や、発信方法の工夫について



受講者の学びが実践とつながるものとなった。また、「園と家庭のつながるシート」について、小学校との連携・接続に向けた活用についても学ぶ場となった。

＜「でいあシート」（つながるシート）の作成・検討の様子＞

教育・保育の中での、遊びを通して学ぶ重要性や子ども理解及び乳幼児教育・保育内容の理解推進、また、「奈良市保育教育士育成指標」における4つの資質・能力の中の知識、実践（子ども理解、家庭・地域・小学校との連携、人材育成）、研修、研究を育成することを目的として、幼児教育アドバイザーが、ミドルステージ研修の学びを活かした「でいあシート」を作成し、保護者への発信・活用について検討を行った。幼児教育アドバイザーがミドルステージの保育者と協働で作成したことで、「でいあシート」の作成自体が保育者の資質・能力の向上となり、保護者との双方向型の交流が行われただけでなく、人材育成にもつながった。また、ミドルステージの保育者と共に作成を行うことで、幼児教育アドバイザー自身の資質向上となった。



令和4年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名：岡山県玉野市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

教育委員会が域内すべての就学前教育園を管轄し、教育委員会内に就学前教育センターを設置し、就学前教育職員を指導する就学前教育アドバイザー3名を配置

- ・幼稚園（公立6園、私立なし）
- ・保育所（公立4園、私立3園）※私立3園はすべて同じ法人が運営。
- ・認定こども園（公立5園、私立なし）※すべて保育所型の認定こども園。

【令和4年度における主な取組内容】

- ①公私立幼保全18園への園訪問を実施（事前訪問、事後フォローアップを含む。）
- ②若手職員（新採用～3年目の職員）への定期的な巡回訪問指導の実施（毎月実施）
- ③多種多様な研修会（参集及びオンライン）の開催（コロナ感染症対策を講じて実施）
- ④園小連携の取組の推進
- ⑤県及び県内自治体への情報発信及び情報共有
- ⑥県内外の先進地視察（幼・保・こ園・小学校等）

【取組内容の具体的な事例】

上記①：公私立幼保全18園への園訪問を実施

（事前訪問、事後フォローアップを含む。）関連

<右上段の写真：園訪問（当日）の様子>

訪問指導を受けることを通じ、全園職員の意識改革や、他園職員も参加することで、保育のレベルアップが図られている。



上記②：多種多様な研修会の開催

（新型コロナウイルス感染症対策を講じて実施）関連

<右中段の写真：研修の様子>

参加者人数を調整し、さらに開催場所も広い部屋を確保し、3密を避けて研修を実施した。講師との意見交換が充実し、理解を深めることができた。



上記③：園小連携の取組の推進 関連

<右下段の写真：園小連携、学校訪問の様子>

小学校区単位（小学校教諭（1年生担任）とそのエリアに所在する園職員（年長担任））で相互に訪問を実施し、カリキュラムの打合せ・協議を行った。直接担当者同士で協議するため、具体的な部分での調整ができた。



令和4年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名：岡山県高梁市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

令和4年度高梁市では、健康福祉部こども未来課が所管していた就学前関係業務を教育委員会こども教育課に移管し、組織の一元化が実現したことにより、就学前教育から高等教育までの一貫教育を一層強化する体制が整った。また、令和3年度に導入した保育業務支援システムが本格稼働し、ICTを活用した保育者の業務負担軽減のための取組を進めた。過疎化による学校、園の統廃合が急速に進む中で、園小接続の問題や園児数の減少に伴う教育・保育の課題解決に向けて、知識と経験を伴う就学前教育アドバイザーの存在は大きい。

【令和4年度における主な取組内容】

- 1 園への計画訪問、要請訪問の実施
- 2 研修会の計画・実施
- 3 市指定研究会の推進
- 4 園小接続の取組
- 5 保育業務支援システムの活用支援
- 6 要支援児に関わる教育・就学支援
- 7 県・市町村の連携及び市内全体の体制づくり

【取組内容の具体的な事例】

【事例1 園小接続の取組】

令和4年度、市内全園の園長、主任等が集まる研修会等で令和3年度に見直しを行った接続カリキュラムの実践について働きかけを行い、継続的な接続への意識づくりを図った。園小接続カリキュラム推進のため、市内全園・全小学校への計画訪問・要請訪問を園小の先生方が顔を合わせる機会の一つとして活用し、就学前アドバイザーによる指導助言を行っている。

(1) 小学校への計画訪問

4月～5月に、1年生の在籍する市内全小学校（12校）への計画訪問を実施し、1年生のスタートカリキュラムの授業を参観した。1年生の出身園の保育者、園長等が授業参観し、その後、園と小学校の担任・担当者・管理職等とで、接続カリキュラムや交流活動、子どもの様子等について情報交換及び協議を行った。



(写真：5月13日川上小学校計画訪問の様子)

【事例2 保育業務支援システムに係る研修会の開催】

7月15日（金）保育業務支援システムを導入した市内保育園・こども園5園の内の一つである成羽こども園にて、公立園全13園の園長や主任等の先生を対象に保育業務支援システムの教育・保育への活用について研修会を開催した。（園から23名参加）

この研修会では、市指定の教育保育課程研究指定園である有漢こども園から「ICTの活用による保育の充実」をテーマに、ドキュメンテーションの活用についての実践紹介とシステム開発業者である日本ソフト開発株式会社の担当者から保育業務支援システムの機能紹介と操作説明を受けた。保育を見える化するツールとして写真や動画を日々の保育の振り返りに活用したり、実際にシステムの機能について操作演習を行うことで、日々の業務への活用方法を学ぶ研修会となった。



【事例3 就学前職員広域研修会の開催】

12月16日（金）、高梁総合文化会館にて、就実短期大学幼児教育学科准教授三好 年江氏を講師にお招きし、「子どもの見方が変わると保育が変わる」と題してご講演をいただいた。管内の園だけではなく、近隣の新見市、吉備中央町、高梁市と同様に「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」を採択された岡山県義務教育課と玉野市、美作市にも広く参加を呼びかけ、44名のご参加をいただいた。（参加者内訳：市内公立園21名、私立園1名、新見市5名、吉備中央町2名、玉野市15名）



三好先生の講演の後、参加者同士の情報交換と「子どもを見ることについて意識できていること」についてグループ協議を行った。三好先生の講話により、参加された先生方が子どもを「見る」「理解すること」について考え、日頃の保育を振り返り、明日の保育に活かしていく学びの機会を作ることができた。

令和4年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名：岡山県美作市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

市内保育園・こども園・幼稚園8園すべてが教育委員会管轄であり、人事交流を行
いながら研修はすべて合同で行っている。美作市幼児教育目標「きらきら笑顔夢中にな
って遊ぶ子ども」をめざし、質の高い幼児教育を進めている。また、幼児教育アドバイ
ザーを平成28年から配置し（元幼児教育担当指導主事及び小学校校長）、適切な指導を
通して市の幼児教育の質の向上や幼保小接続が着実に進んでいる。

【令和4年度における主な取組内容】

- ・ 保こ幼小連携・接続の継続した取組
- ・ 人材育成方針の更新・活用
- ・ 都道府県・市町村の連携を含めた域内全体の質向上を図るための仕組み作り

【取組内容の具体的な事例】

＜保こ幼小接続の継続した取組の様子～市内小中学校新規採用教員研修の様子＞

就学前と小学校の円滑な接続のためには、互いの教育や保育について相互理解するこ
とが何より重要である。そこで本市では子どもの交流だけでなく教職員の合同研修を実
施し連携を充実させてきた。5歳児担任の小学校1年生の授業参観や小学校教員（1年
生担任は悉皆研修）や美作市小中学校新規採用教員の就学前施設での保育体験研修を
継続して実施している。



研修では幼児教育アドバイザーが幼児教育や連携接続について、パワーポイントを使
用してプレゼンテーションによる説明を行った。また、幼児が遊んでいる写真を使用し
てどんな力が育っているか「10の姿」を基に協議した。このような地道な取組を継続す
ることが相互理解の推進となり、円滑な接続につながっている。

＜スタートカリキュラム合同作成の様子＞

小学校区ごとにスタートカリキュラムの合同作成を始めて4年目になる。今では、全
小学校区で行っている。就学前教育で身につけた遊びや生活経験を活かしたスタートカ

リキュラムになるよう合同で作成している。手遊びや歌、リズムに乗った身体表現を始め、言葉遊びや絵本の読み聞かせ等で、一日を楽しく生き生きとスタートできるよう「なかよしタイム（名称は各校で決定）」を設定。スタートカリキュラムを互いに話し合いながら、合同作成することで子どもたちが安心して自己を発揮しながら生き生きと学校生活がスタートできるよう工夫している。今年度は市内小学校へ幼児教育アドバイザーがスタートカリキュラムの実施状況を取材に行き、滑らかな接続に向けて一年生担任への助言も行った。



＜～特別支援に係る巡回相談の見直し、継続と充実に向けての取組～の様子＞

令和4年度より2年間県の拠点化事業を受け、今年度は拠点園である市内の1園のこども園を中心に連絡協議会や先進地視察への参加をし、これまで積み重ねてきた巡回相談の見直しを図るきっかけとなった。また、市の子ども政策課や発達支援センターの保健師や看護師、心理士等と幼児教育センターの指導保育士が一つのチームとなり巡回相談を計画的に実施することができた。来年度へ向けては、園のコーディネーターの配置と役割の明確化を図っていきたい。



＜研修支援～美作市幼児教育研修会～の様子＞

令和4年11月1日実施

令和4年度も鳴門教育大学 木下光二教授を招聘し、3歳以上児の公開保育及び協議を行った。令和4年度は近隣の奈義町・西粟倉村に参加を呼びかけるとともに、新たに公開実施園と同じ学区内の小学校の先生にも案内をし、合同研修を実現させることができた。また、小学校の先生に参加いただくことで、幼児期の遊び込みが就学後の学び込みへとつながっていくことの共通理解を深めることができたことは令和5年度への研修にもつなげていきたい。また、木下教授にも公開保育では実際の保育を見ていただき、午後からの協議に参加していただいた。協議の中で教授からは、本研修も5年目となり園環境などが積み上がってきたことや、令和4年度新たに小学校の先生も参加いただけたことは大きな前進であることも評価いただくことができた。協議の中における保育の振り返り場面では、各担任の保育教諭が個に絞ってエピソードを交えて話すことができ、振り返りも令和3年度より更に質が高まったことなどは、市内の他園から参加された先生にとってもよい学びにつながった。

令和4年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名：広島県広島市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

本市では、教育委員会と市長事務局（こども未来局）が連携・協力して広島市乳幼児教育保育支援センターを運営しており、30人の乳幼児教育保育アドバイザーを配置し、広島市私立幼稚園協会・広島市私立保育協会と連携しながら、幼児教育・保育の一体的な質の向上に向けて取り組んでいる。

【令和4年度における主な取組内容】

- 1 乳幼児教育保育アドバイザーの育成・派遣
- 2 乳幼児教育・保育の質の向上に関する懇談会・人材育成のための意見交換会の開催
- 3 幼稚園教諭・保育士新規採用者合同研修会の実施
- 4 公立の幼稚園・保育園が連携した公開実践（公開保育）の実施
- 5 市立幼稚園における実践研究及びその成果の普及・就学前の子どもを持つ保護者に対する子育て支援
- 6 広島県乳幼児教育支援センターとの連携 等

【取組内容の具体的な事例】

＜幼稚園教諭・保育士新規採用者合同研修会＞

市内の幼稚園・保育園・認定こども園等において、幼児教育・保育に携わる採用2年目までの職員を対象に、研修会を2回開催した。各回2日ずつ開催し、第1回は計218人が、第2回は計214人が参加した。また、グループワークでは乳幼児教育保育アドバイザーが各グループに加わり、助言等を行った。

【第1回】

講話：保育者としての私は、どのような姿勢で子どもと向き合えば良いのか？

講師：中坪 史典 氏

広島大学大学院人間社会科学研究科 教授

広島大学大学院人間社会科学研究科附属幼年教育研究施設 施設長



【第1回 紙飛行機を使った討論】

【第2回】

実践発表：子どもの遊びを通じた育ちや学びについて

発表者：市立幼稚園・公立保育園・私立保育園・私立認定こども園の職員（各日2人ずつ、計4人が発表）



【第2回 先輩職員の実践発表】

＜公立の幼稚園・保育園が連携した公開実践（公開保育）＞

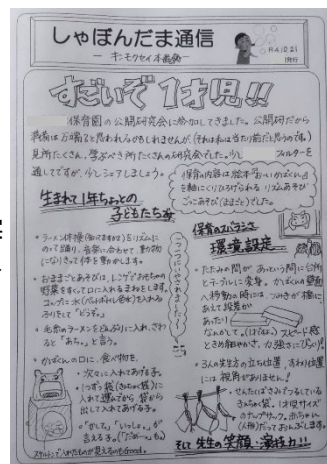
各区の拠点となる認定こども園として統合を予定している幼稚園・保育園が連携し、市内全8区の計10園で公開実践（公開保育）を実施した。

公・私立の幼稚園・保育園等から51園が参加し、幼稚園・保育園等の相互理解の深化や、幼稚園教諭・保育士等としての資質・能力の向上につながった。また、市立小学校8校の参加もあり、幼保小接続の観点からも有意義な取組となった。

【右：小学校教頭が公開実践に参加後、自校の職員にその内容を紹介】



【左：保育の公開後、小学校長、公開園や他園の職員、乳幼児教育保育アドバイザー等による意見交流を実施】



＜広島県幼児教育アドバイザー・広島市乳幼児教育保育アドバイザー合同研修会＞

広島県乳幼児教育支援センターと連携して「広島県幼児教育アドバイザー・広島市乳幼児教育保育アドバイザー合同研修会」を実施し、県・市それぞれの事例発表や県・市のアドバイザー同士の意見交換等を行った。

本市のセンターやアドバイザーのみで協議したのでは得られない知識や意見に触れることができ、アドバイザーの資質・能力や意欲の向上につながった。



【合同研修会の様子】

令和4年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名：山口県周南市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

公立園 17 園・私立園 25 園を抱える本市において設置者・施設類型を越えて保育者の専門性向上を図るとともに、「周南市架け橋プログラム」の推進により協働した幼児教育推進体制を確立することは喫緊の課題である。そこで、周南市乳幼児教育センターを令和4年度4月に設置するとともに、センター業務を関係機関相互の連携により実践的に推進するため「周南市幼保小の接続・連携による教育・保育充実のための実践的協議会」を年2回開催している。

【令和4年度における主な取組内容】

- 周南市乳幼児教育センター主催で市内全乳幼児施設対象のオンライン合同研修会開催
～年6回延べ20日参加人数447人
- 学校教育課と共催し公開保育をもとにした協議を実施する「幼保・小連携交流会」
～年9回実施 参加園数延べ48園30校 参加人数延べ90人
- 3名のアドバイザー（幼児教育2・幼保小接続担当1）及び保健師（1）による訪問
訪問実施施設数54／69園・小学校 延べ訪問回数149回
- 周南市幼保小の接続・連携による教育・保育充実のための実践的協議会 年2回開催

【取組内容の具体的な事例】

＜周南市教育委員会学校教育課指導主事と連携した
スタートカリキュラム訪問の様子＞

幼保小連携を推進するに当たっては、学校教育課との連携が不可欠である。本市では小学校における入学時の児童の様子と実施されているスタートカリキュラム



を把握し、今後の指導改善に生かすために、学校教育課指導主事と連携してスタートカリキュラム訪問を実施している。画像は、訪問前に幼保小連携アドバイザーと指導主事が、より効果的な訪問の在り方を協議しているところである。

＜公開保育をもとにした幼保・小連携推進交流会の様子＞

学校教育課と共催の形で、市内9箇所において公開保育をもとに幼保小連携を協議する研修会を実施した。「子供達の遊び姿を見て主体性がよく育まれていると思った。」「環境構成がとても参考になった。」など、互いの保育・教育について実感を伴って理解する貴重な機会となっている。



<幼保小連携についての研修会の様子>

小学校教員が幼稚園教育要領等のねらい・内容や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について理解を深めるとともに、園と連携して資質・能力を育むための指導について協議を行う研修会を要請に基づきアドバイザーが実施している。

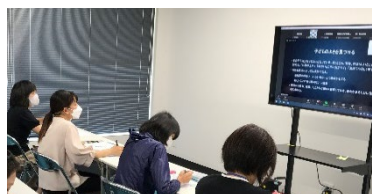


<センター保健師による訪問の様子>

初年度として、保育所・幼稚園対象の巡回訪問を実施した。園から相談のあった発達の気になる子ども等については、状況等を把握した上で、保健担当（あんしん子育て室）に情報提供・共有し、保護者支援等に繋げることができた。また、園の相談に同行し、保健師の立場での助言や支援内容等について提案したことが専門家の相談に繋がり保護者が我が子の理解をさらに深める機会となった。

<周南市乳幼児教育センター主催オンライン合同研修会の様子>

これまで集合型で年1回実施していた市内全乳幼児保育施設対象合同研修会のオンライン化を行い、年6回実施した。その結果、開催日延べ20日で参加人数447人となり、令和2年度と比較して4.5倍とより参加しやすい形にすることができた。また、園によっては、「全職員が同じ研修に参加することで、園内研修が活性化した。」という新たな成果があがっている。



<周南市幼保小の接続・連携による教育・保育充実のための実践的協議会の様子>

周南市乳幼児教育センター業務を関係機関相互の連携により実践的に推進するため、学識経験者（周南公立大学・山口大学）、幼稚園協会、保育協会、県・市教育委員会担当者からなる委員による協議会を年2回開催した。

周南市架け橋プログラムの推進を全市的に図る上で、それぞれの立場からの貴重な意見をいただくことができ、周南市架け橋プログラム合同会議モデル(案)が明確になった。令和5年度は、このモデル(案)について、市内全園・小学校にアンケート調査を実施し、令和6年度の合同会議本格実施の円滑なスタートを支えていく予定である。



令和4年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名：沖縄県糸満市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

本市では幼小接続アドバイザーを配置し、教育委員会と福祉部局が連携しながら施設類型を超えた研修支援（幼児教育の充実・幼小連携）を行っている。保育者一人ひとりが自らのキャリアステージにおいて目標を明確にすることで更なる教育・保育の充実が図れるよう、糸満市保育者育成指標の活用について説明会（オンライン・DVD）を実施し、指標と連動した研修計画を取り入れている。

【令和4年度における主な取組内容】

- 幼小接続の推進
- アドバイザーによる巡回訪問支援
- 保育の質向上のための園内研修支援
- 先進的な取組を推進する研究園の指定
- 幼児教育の中核となる人材を育成する取組
- 保育者育成指標の周知・活用

【取組内容の具体的な事例】

＜幼小連絡協議会の様子＞ ～子どもの姿を中心に語り合う～

接続を意識した取組として、幼小職員の合同研修や公開授業・公開保育を通してお互いの教育についての理解を深めている。公開授業や公開保育では、同じ場面を見ることで子どもの姿や育ちのイメージを共有することができている。参観後のワークショップ型研修では、校種に関係なく共に学び合う姿が見られる。



＜巡回訪問の様子＞

幼小接続アドバイザーと幼児教育担当が幼児教育の内容・実践方法の一層の充実を図ることを目的に、公私立・施設類型を問わず市内幼児教育施設の巡回訪問を行っている。公開保育と意見交換を通して園の実態を把握し、良さを積極的に認めていくことで関係性の構築に努めている。見えてきた課題は研修の内容に取り入れることで改善が図れるようにしている。



＜研究指定園の取組の様子＞

市指定の研究園に研究を委託し、要領・指針の趣旨を踏まえた研究・研修の機会を確保している。園内研修に大学の講師を招聘し、幼小接続アドバイザーや幼児教育担当も同行している。ドキュメンテーションやエピソード記述を取り入れ幼児理解を深めている。研究の成果を公開保育や報告会を通して市内の幼児教育施設に発信し、市内全体で共有している。



＜園内研修支援＞

園の研修テーマに基づいた自主的・計画的な研修を支える取組を行っている。学び合いを促す「ファシリテーション」を取り入れ、参加型の研修を目指している。「子どもにとってどうなのか」という問いを持つことで、現状と課題を把握し改善へとつなげている。

＜ミドルリーダーの育成＞

園の中核を担うミドルリーダーの育成を目指して、公立こども園の指導保育教諭研修会で幼小接続アドバイザーが指導・助言を行っている。

保育の基本となる「子ども理解」を中心に、自身の保育を振り返る「省察」の大切さ等、糸満市として大切にしたいことを共有する場となっている。

＜「糸満市保育者育成指標」説明会の様子＞

教育委員会と福祉部局が令和3年2月に策定した「糸満市保育者育成指標」について周知するために、市内幼児教育施設の園長を対象にその策定の経緯や活用法についての説明会をオンラインで行っている。また、説明用のDVDを準備し貸し出すことで、説明を受けた園長から園の職員へ伝達ができるようにしている。保育者育成指標に基づき研修を体系化し、保育者の主体的な研修参加へとつなげている。



令和4年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名：沖縄県豊見城市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

本市では令和2年度より教育・保育の充実と質向上を図るため、幼児教育アドバイザーを中心に市内全ての認可保育所（園）・認定こども園を訪問してきた。令和4年度からは私立幼稚園も対象に加え、園の良さや子どもの姿を語り合うことを重点とした話し合いを行い、幼児理解や子ども主体の保育等について共通理解を図っている。今後は認可外保育施設も訪問し、公私・施設類型を問わず幼児教育の質向上を図る支援を行う。

【令和4年度における主な取組内容】

- ・ 認可保育所（園）、認定こども園、私立幼稚園、計29園への訪問を実施する。（実施後、ドキュメンテーションを作成し、園の良さと子どもの学びを共有する。）
- ・ 小学1学年スタートカリキュラム期の授業参観を実施する。
- ・ 小学1学年授業参観及び情報交換会を実施する。（市外の好事例を共有する。）
- ・ 各種研修会の実施（園長・校長研修会、スタートカリキュラム研修会、合同研修会を実施する。）
- ・ 保幼小連携推進協議会、保幼小連携連絡部会（いずれも年2回）を開催する。

【取組内容の具体的な事例】

＜小学1学年授業参観及び情報交換会＞

授業の合間に体を動かしてリフレッシュの時間を設ける等、子どもの発達の特性を踏まえた授業展開や工夫があった。また、情報交換会では「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点として話し合うことで、幼児期の遊びを通しての学びと小学校以降の学びのつながりについて共有をすることがつながりできた。

園で経験したことのある手遊びを楽しむ様子



＜スタートカリキュラム研修会＞

オンライン研修の様子



スタートカリキュラム研修会を開催した。のびのびタイム、なかよしタイム、わくわくタイム、ぐんぐんタイムの実施や単元配列表作成等、具体的な取り組みの提案がなされた。またブレイクアウトルームを活用し、各校区で令和5年度のスタートカリキュラムについて話し合いが行われた。

<合同研修会>

スタートカリキュラム協働での作成を目指して、就学前施設が作成した保育ドキュメンテーションを活用し、ワークショップ型の研修を行った。就学前施設の職員が保育ドキュメンテーションを通して幼児期の育ちや学びを語ることで、小学校以降の学びについて共有がなされた。

スタートカリキュラムを就学前施設と小学校が協働で作成していく一歩となった。

各校区でのワークショップの様子



令和4年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名：沖縄県伊江村

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

- ・ 保幼連携（教育委員会・福祉課）の更なる充実に向けて相互理解に努め、本事業を中核に連携を図る。
- ・ 園長、主任、校長、1年生担任との情報交換を取り持つ必要がある。
- ・ 個別に支援が必要な幼児に対して専門的な助言を頂くために、専門家と連携の強化が必要。

【令和4年度における主な取組内容】

- ・ 年7回の開催（連携推進協議会3回・合同研修会4回）
- ・ 村連携アドバイザーによる各園訪問（2幼稚園・2保育所）、指導助言

【取組内容の具体的な事例】

＜伊江村保幼小中連携体制推進協議会の様子＞

- ・ 「15の島建ち」を意識した連携体制をより強固なものとするために保幼小中の連携、幼児教育の充実に向けた課題等を協議するとともに、保育士・教諭の資質向上に資する研修等を計画。



＜第1回保幼小中連携研修会の様子＞

- ・ 竹内清文氏を講師に招き「LGBT・性の多様性～自分らしさとお互いの違いを大切にすることを育む～」をテーマに講演を実施。
子ども一人ひとりの成長に合わせた理解と援助を課題とする。



＜県幼児教育アドバイザー巡回支援訪問の様子＞

- ・ 幼保の実態に即した課題の解決につながると共に課題も見え、質疑応答で現場の声を届けられ、専門性を活かした助言をいただいた。
幼児期まで終わりまでに育ててほしい姿を考慮した進め方が課題だと感じた。





<第2回保幼小中連携研修会の様子>

・『伊江島を笑顔にする子育て論』をテーマに
TEAM SPOT JUMBLE 座長の津波信一氏と伊江島出身タレントの渡久地明奈氏を招き講演会を実施。参加者の表情に満足感が感じられ、次年度も希望する声が多かった。
PTAと連携をとり、保護者の参加を募る。

<第3回保幼小中連携研修会の様子>

- ・年間計画実施成果、課題報告及び講演会
振り返りアンケート報告を行った。
日頃から保育や学校授業参観ができる体制作りなど多くの声が上がった。
今後の課題として、架け橋プログラムの周知を徹底していく。



令和4年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」
主な取組内容概要

自治体名：沖縄県金武町

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

金武町では、公立、私立を問わず、町内のどの保育園、こども園、幼稚園に入園しても、小学校入学までに一定の幼児教育水準となることを目指して、0才から15才までを見通した子どもたちの「発達」や「学び」を支援するため、「学びの基礎力育成支援事業」を平成26年から行っている。幼児期で培った力を小学校・中学校へとつないでいけるよう、幼児教育の充実や体験・交流活動を通して「円滑な接続」を図っている。

研修の機会の充実、情報の共有等を勧め、保育の質の向上につながっていくこと、幼児教育の事業を組織的に企画・運営し、持続可能な事業として継続できるように令和5年度4月より幼児教育センターを設立し、スタートする。

【令和4年度における主な取組内容】

- 幼小接続アドバイザーによる研修支援の実施。年3回の公開保育・保育研修会、年齢別研修会（0才児～5才児）、園長研修会、幼小交流、小中交流、5才児同士の交流（スポーツ交流）
- 幼小のスムーズな接続と連携方法の検討。金武町架け橋プログラム・スタートカリキュラムの検討・整備。
- 金武町の幼児教育事業・幼小交流事業の積極的な発信。5才児保護者向けのリーフレット（できるといいなこんなこと）の検討と配付。

【取組内容の具体的な事例】

＜県幼児教育アドバイザーや沖縄キリスト教短期大学教授を講師に町内園の公開保育・保育研修会（2回）を実施＞（内1回は、コロナのため未実施）

○保育研修会では、参観の視点「自分の思いを表現する」で、公開保育参観後にグループ協議を行い、協議後に講師からの指導助言をもらい、保育環境の大切さを理解する事ができた。



＜年齢別研修会（0才児～5才児担任）の様子＞

○他市町村の園長や元園長、幼児教育アドバイザーを招聘し、各年齢に応じた保育の講話や演習を行った。今後の保育実践への意欲の向上に繋がった。



令和4年度「幼児教育推進体制を活用した地域の幼児教育の質向上強化事業」 主な取組内容概要

自治体名：沖縄県南城市

【幼児教育に関する現状や幼児教育推進体制の取組の特色等】

本市では、公立幼稚園が令和5年度には1園（離島）を残し、認定こども園へ移行し、私立保育所等の施設数が大半を占める中、公立こども園1園と公私連携認定こども園3園を結節園とし全ての幼児教育施設から小学校への円滑な接続と幼児教育の質の向上を図る。

令和4年10月に市幼児教育センターを設置し、福祉部（保育所所管部署）と幼児教育推進体制の充実を図り、幼児教育アドバイザーと幼保小接続担当アドバイザーを配置している。

【令和4年度における主な取組内容】

- ・ 幼児教育アドバイザー等による市内全幼児教育施設への巡回訪問
- ・ 公開保育（授業）の実施及び合同研修会の実施（年6回）
- ・ 園内研修支援の実施及び保育園長会や保育園主任会での講話
- ・ 保育ドキュメンテーション実践事例集の作成
- ・ 第1次南城市幼児教育推進計画の策定（R5～R9年度）
- ・ 市広報誌に幼児教育に関する特集記事を掲載

【取組内容の具体的な事例】

<巡回訪問の様子>

保育参観（60分）後、園長等との懇談（45分間）を実施。事前に園の取組を提出してもらい、保育の現状を把握し、懇談に臨んだ。

【成果】保育の現状の把握や関係性の構築



<公開保育（授業）及び合同研修会の様子>

公開保育（授業）後に、幼児教育施設及び小学校の職員で合同研修会を実施。振り返り後、講師の琉球大学の宮城先生による指導助言及び講話を実施。

【成果】相互理解や幼児教育の知識が深まった。



<合同研修会（グループワーク）の様子>

第5回合同研修会では、保育所の公開保育を参観後、幼児教育施設と小学校の職員が育ちや学びを10の姿を手掛かりに、協議を行った。



【成果】遊びを通じた学びや遊びの中で育まれる力について
幼児教育施設と小学校の職員で話合うことができ、
幼児教育について理解を深めることができた。

＜園内研修の様子＞

保育所からの要望により園内研修で講話を実施。
保育園長会・主任会において講話を実施。保育ドキュメン
テーション作成や、要領・指針に関する講話を実施した。

【成果】園内研修の充実、幼児理解が深まった。

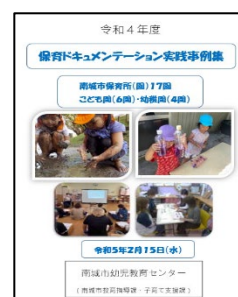


＜保育ドキュメンテーション実践事例集＞

市内幼児教育施設より保育ドキュメンテーションを提出いた
だき実践事例集を作成。27園38事例を掲載。

市内全幼児教育施設、小学校及び中学校へ配布。

【成果】各園の保育ドキュメンテーションをまとめることで
幼児理解や遊びを通しての学びや育ちを読み取ること
を意識するようになった。



＜幼児教育センター連絡会の様子＞

年5回幼児教育センター連絡会（兼プロジェクト委員会）
を実施。保育園長会代表や公私連携認定こども園長代表、
幼稚園教頭、教育委員会及び福祉部が一堂に会し連絡会を
実施。

【成果】市内の幼児教育に関する企画や情報共有等をするこ
とにより事業の充実や課題解決について議論することが
できた。



＜市広報誌に特集記事を掲載＞

市広報誌 2023年3月号に幼児教育に関する特集記事を掲載（p2～5）。
幼児教育や遊びの重要性について掲載。

URL : <https://www.city.nanjo.okinawa.jp/kouhoushi/1675665925/>

【成果】家庭・地域に対する幼児教育理解の普及に努めることが
できた。

